

# 「一般病床」の現状について

# 目次

I	一般病床を有する病院について	2
I-①	平均在院日数について	4
I-②	一般病床で実施されている医療の内容について	13
I-③	病院が有する体制について	32
II	DPC対象病院とDPC準備病院について	39

# I 一般病床を有する病院について

# 基本データ

○「平成20年患者調査」「平成20年病院報告」「平成20年医療施設静態調査」「平成20年社会医療診療行為別調査(6月審査分)」を基に、一般病床を有する6,028病院を対象にした分析を実施。そのうち、「病院報告」「医療施設静態調査」は全数調査であり、「患者調査」「社会医療診療行為別調査」は抽出調査。

○平成20年度のDPC対象病院は715だが、「平成20年社会医療診療行為別調査(6月審査分)」で抽出したDPC対象病院はそのうちの273であり、それを今回の分析対象のDPC対象病院としている。

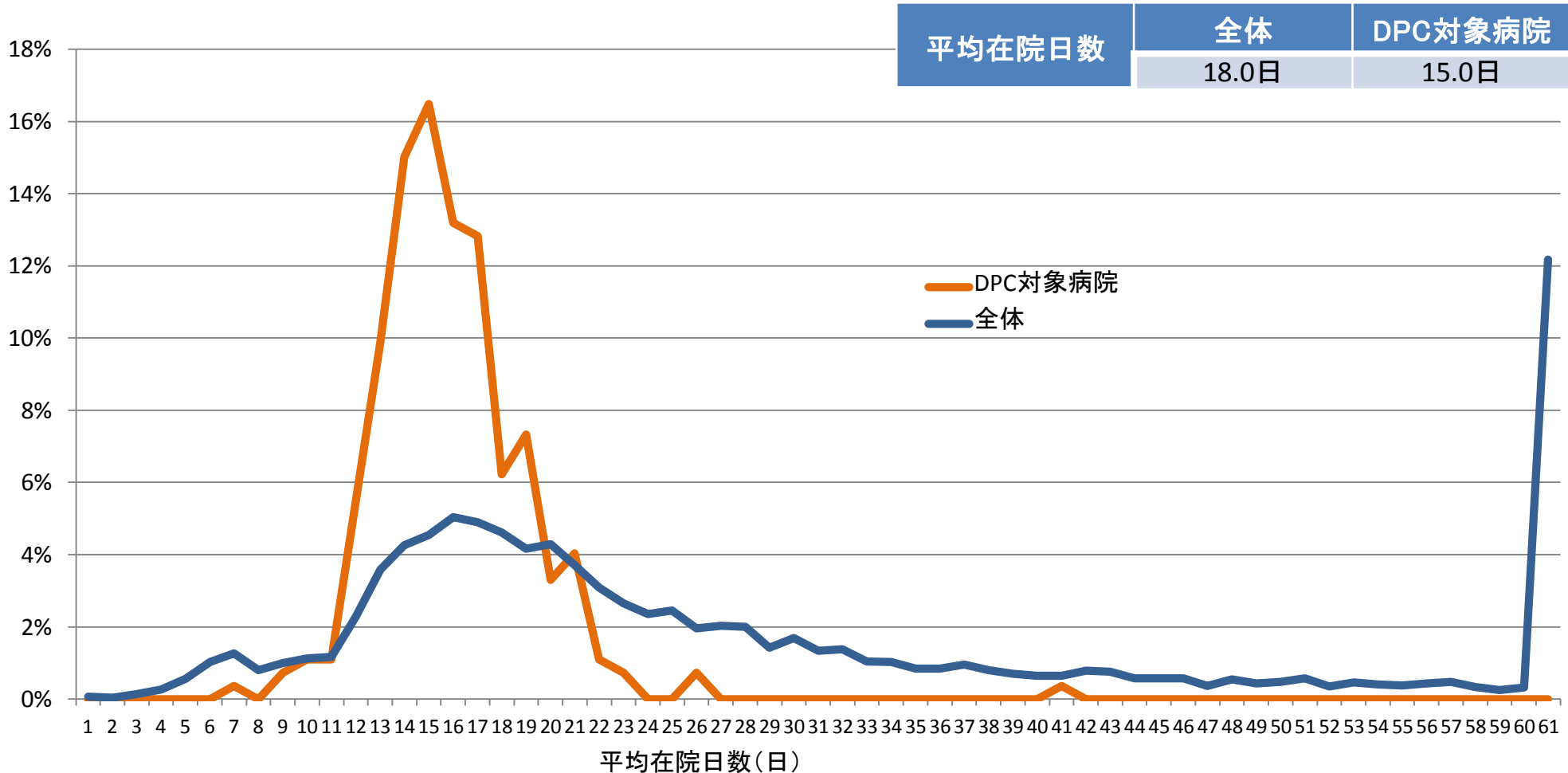
○「平均在院日数」とは、一般病床の平均在院日数を指す。なお、算定に当たっては、病院報告における定義  $\left( \frac{\text{年間在院患者延数}}{1/2 \times (\text{年間新入院患者数} + \text{年間退院患者数})} \right)$  を用いた。

項目		病院数		病床数	
分析対象病院	平均在院日数19日以下	6,028 ※うち「患者調査」の対象は4,354病院、「社会医療診療行為別調査」の対象は846病院	2,461 (40.8%)	904,202	552,224 (61.1%)
	平均在院日数19日より長い		3,567 (59.2%)		351,978 (38.9%)
病床規模別	100床未満	平均在院日数19日以下	3,424 (56.8%)	178,423 (19.7%)	50,623 (28.4%)
			平均在院日数19日より長い		1,001 (29.2%)
	100床以上 200床未満	平均在院日数19日以下	1,222 (20.3%)	172,836 (19.1%)	63,196 (36.6%)
			平均在院日数19日より長い		432 (35.4%)
	200床以上 300床未満	平均在院日数19日以下	460 (7.6%)	111,201 (12.3%)	63,905 (57.5%)
			平均在院日数19日より長い		263 (57.2%)
	300床以上 400床未満	平均在院日数19日以下	383 (6.4%)	128,684 (14.2%)	99,005 (76.9%)
			平均在院日数19日より長い		294 (76.8%)
	400床以上 500床未満	平均在院日数19日以下	216 (3.6%)	94,267 (10.4%)	78,504 (83.3%)
			平均在院日数19日より長い		179 (82.9%)
	500床以上	平均在院日数19日以下	323 (5.4%)	218,791 (24.2%)	196,991 (90.0%)
			平均在院日数19日より長い		292 (90.4%)

## I -① 平均在院日数について

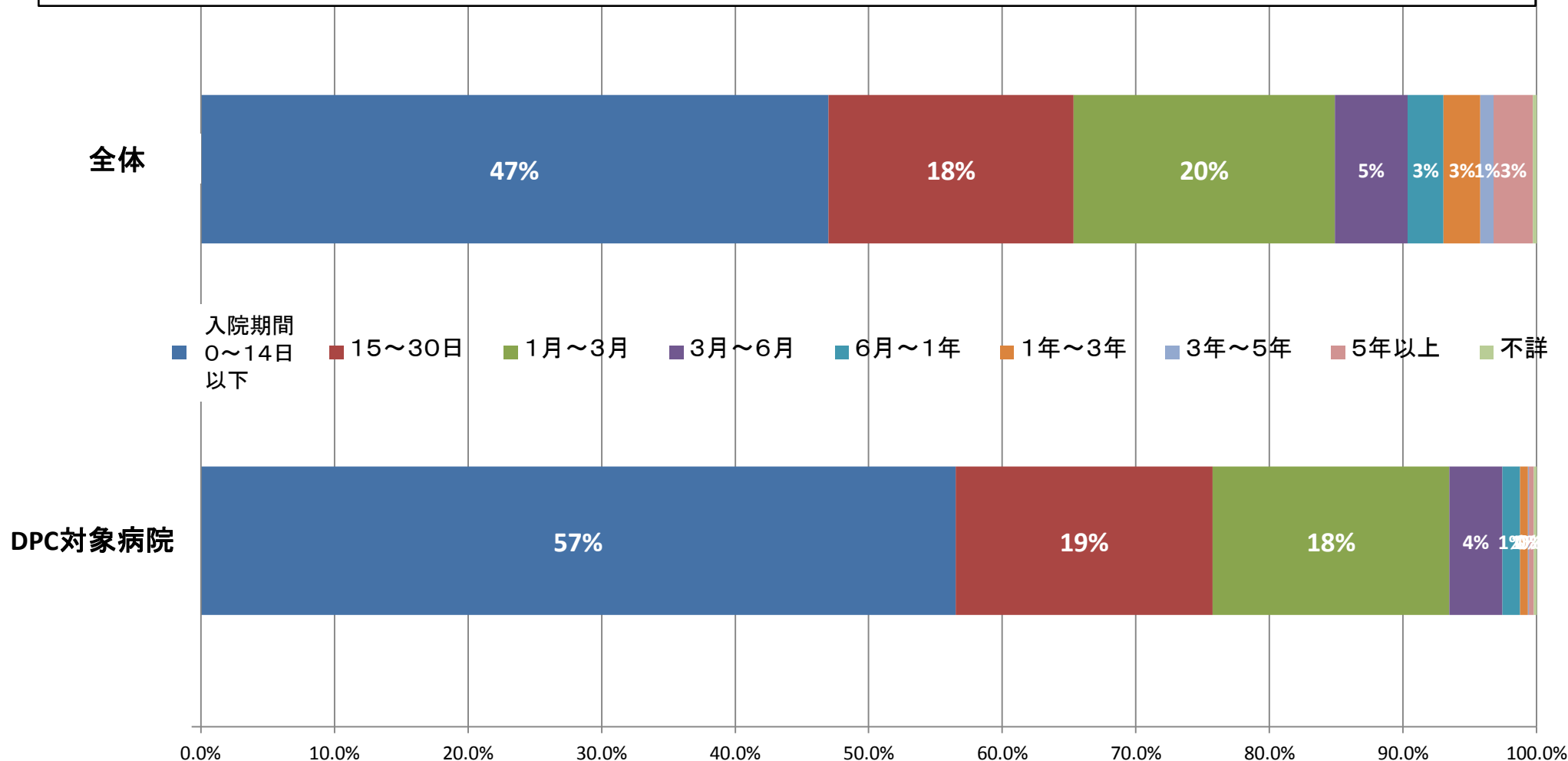
# 平均在院日数別の病院の分布

○「一般病床を有する病院」において、一般病床に入院する患者の平均在院日数は約18日。このうち、分析対象のDPC対象病院の一般病床に入院する患者の平均在院日数は約15日であり、一般病床を有する病院全体に比べて3日短い。



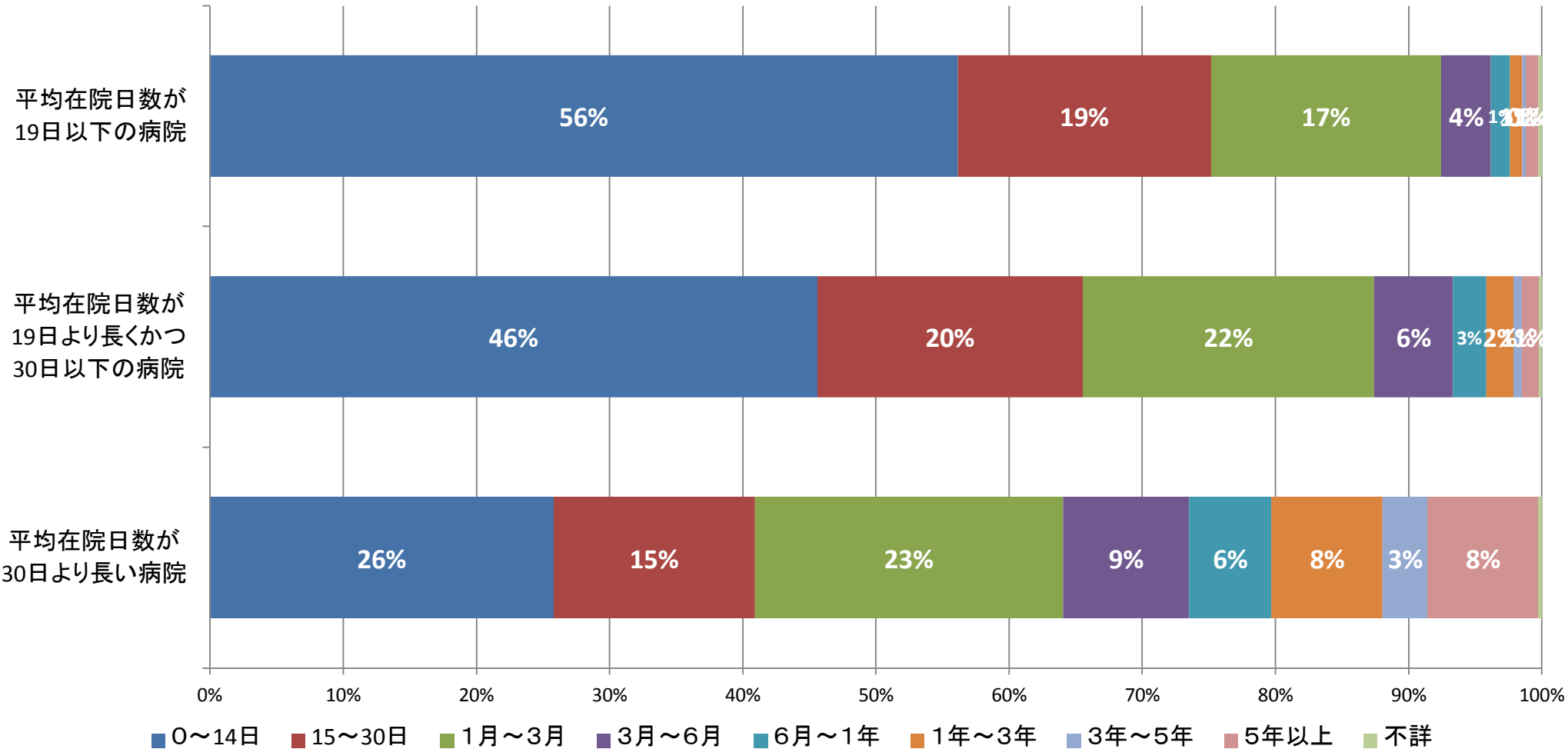
# 入院患者の入院期間別内訳

- 「一般病床を有する病院」においては、一般病床における入院期間別の患者の割合をみると、入院期間が30日以下の患者が約65%、入院期間が3月以上の患者が約15%であった。
- 分析対象のDPC対象病院においては、一般病床に入院した患者のうち、入院期間が30日以下の患者が約76%、入院期間が3月以上の患者が約6%であった。



# 入院患者の入院期間別内訳

- 「一般病床を有する病院」のうち平均在院日数が19日以下の病院においては、一般病床に入院している患者のうち、入院期間が30日以下の患者が約75%、入院期間が3月以上の患者が約8%であった。
- 平均在院日数が19日より長くかつ30日以下の病院においては、入院期間が30日以下の患者が約66%、入院期間が3月以上の患者が約13%であった。
- 平均在院日数が30日より長い病院においては、入院期間が30日以下の患者が約41%、入院期間が3月以上の患者が約36%であった。



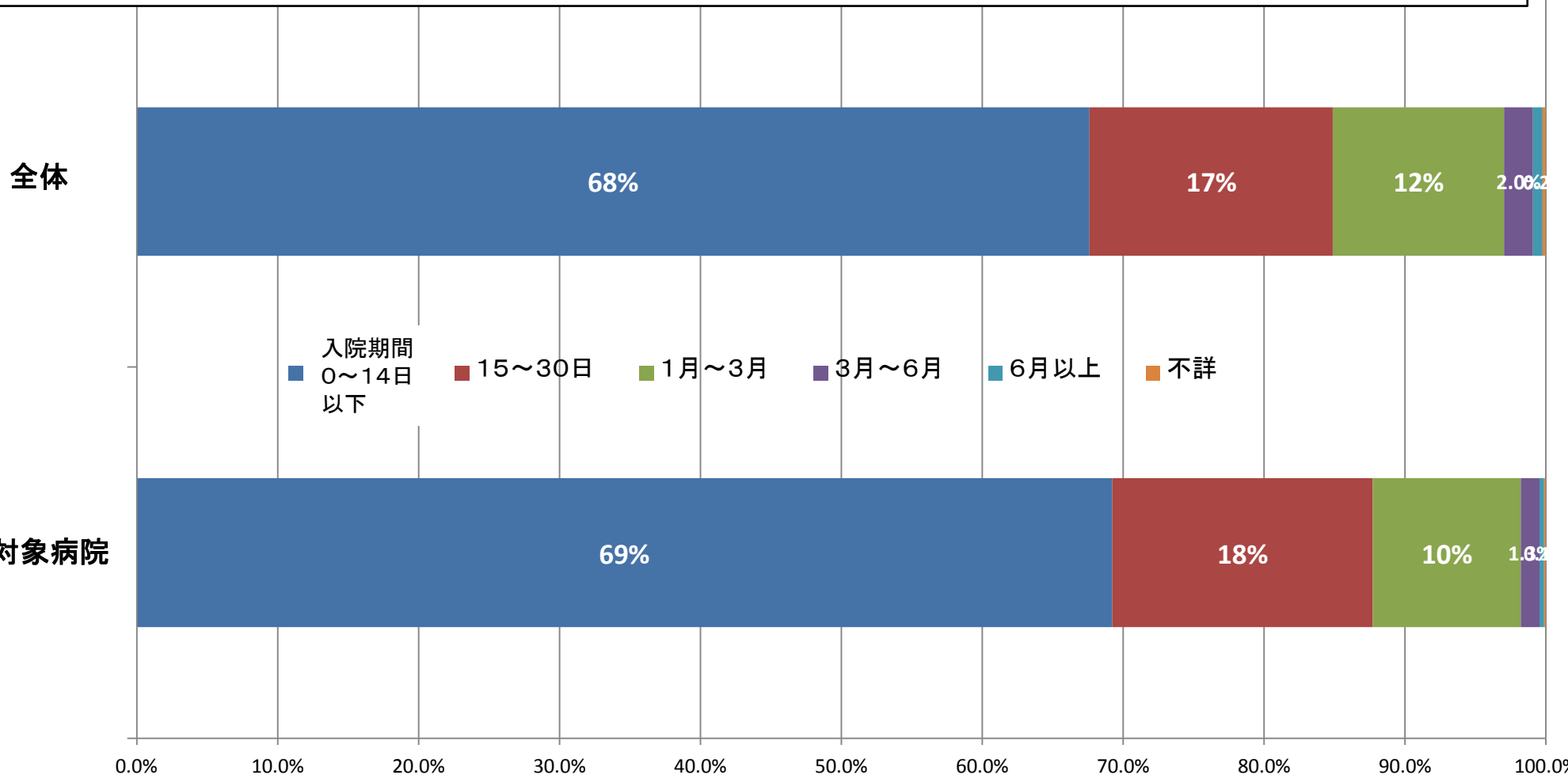
注) 本スライドにおける平均在院日数の定義は、「平成20年患者調査」の定義に基づく。



# 退院した患者の入院期間別内訳

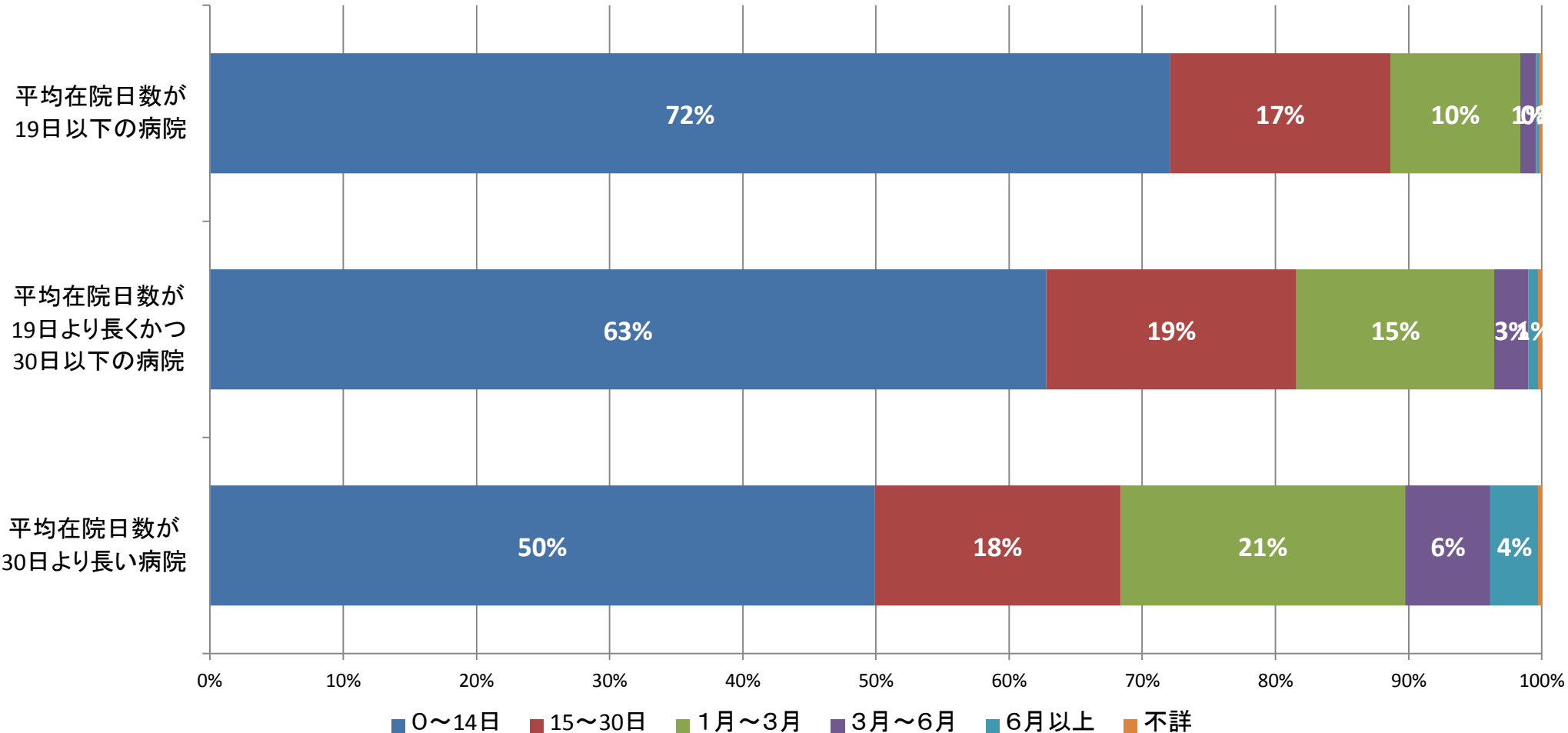
○「一般病床を有する病院」においては、一般病床から退院した患者のうち、入院期間が14日以下であった患者が約68%、入院期間が1月以上であった患者が約15%であった。

○分析対象のDPC対象病院においては、一般病床から退院した患者のうち、入院期間が14日以下の患者が約69%、入院期間が1月以上の患者が約13%であった。



# 退院した患者の入院期間別内訳

- 「一般病床を有する病院」のうち平均在院日数が19日以下の病院においては、一般病床から退院した患者のうち、入院期間が14日以下の患者が約72%、入院期間が1月以上の患者が約11%であった。
- 平均在院日数が19日より長くかつ30日以下の病院においては、入院期間が14日以下の患者が約63%、入院期間が1月以上の患者が約18%であった。
- 平均在院日数が30日より長い病院においては、入院期間が14日以下の患者が約50%、入院期間が1月以上の患者が約32%であった。



注) 本スライドにおける平均在院日数の定義は、「平成20年患者調査」の定義に基づく。

「平成20年患者調査」を基に医政局で作成

# 医療関係者の配置と平均在院日数との関係

○「一般病床を有する病院」における医療関係者(医師、看護師、助産師及び保健師)の配置状況と平均在院日数との関係については、一般病床の平均在院日数が短い(19日以下)病院群と、長い(19日より長い)病院群とを比較すると、平均在院日数が短い病院群のほうが医師や看護職員の配置が手厚い。

医療者	対象病院の平均在院日数		常勤換算数(100床当たり)
1. 医師*	平均在院日数	19日以下	中央値15.2人、平均値17.0人
		19日より長い	中央値10.1人、平均値10.7人
2. 看護職員*	平均在院日数	19日以下	中央値79.0人、平均値81.5人
		19日より長い	中央値65.7人、平均値67.1人
3. 病棟看護職員**	平均在院日数	19日以下	中央値44.2人、平均値43.9人
		19日より長い	中央値38.1人、平均値37.6人

\*「1. 医師」「2. 看護職員」は病院全体の職員であるため、一般病床以外の病床(療養病床、精神病床等)の職員も含まれる。ここでは、一般病床のみに着目する観点から、分析対象病院を「一般病床と感染症病床のみを有する病院」とした。

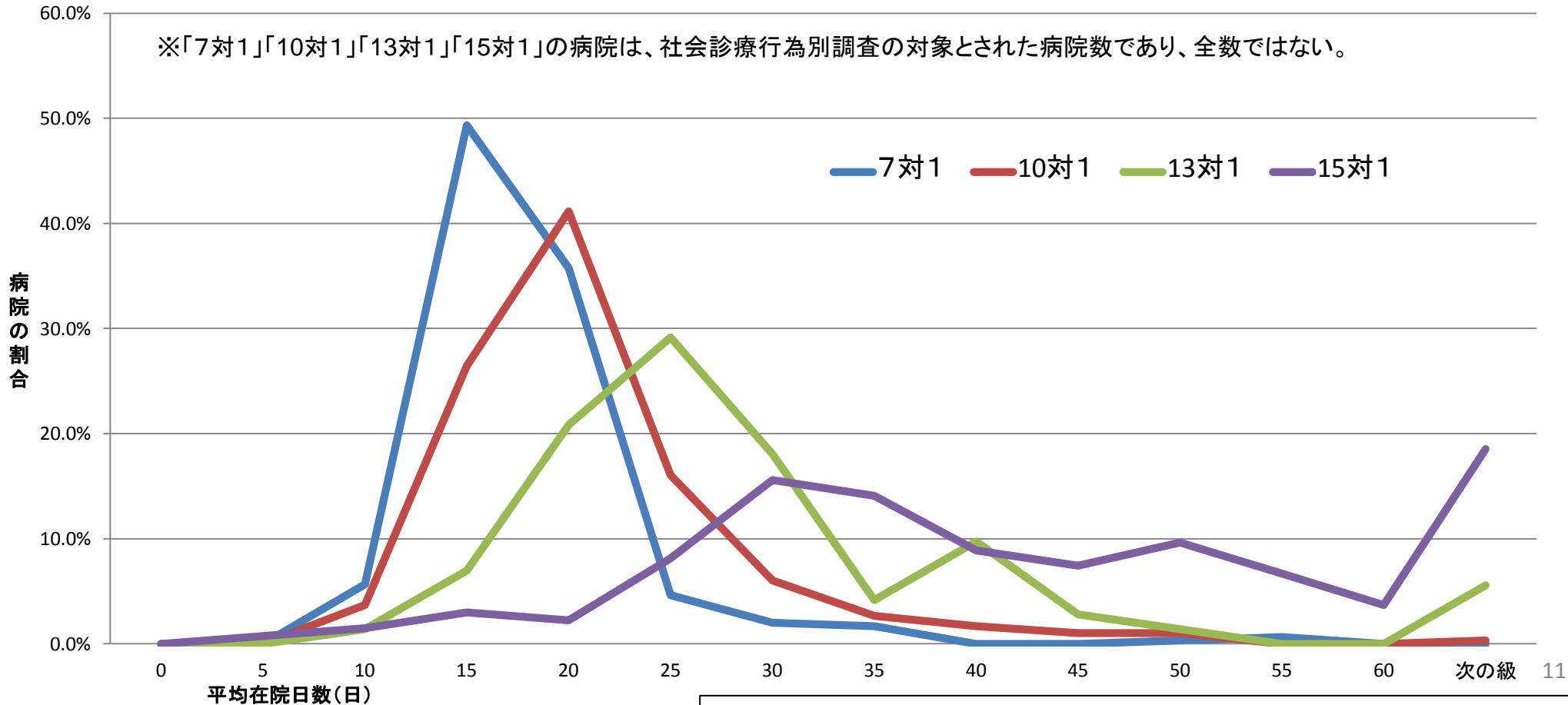
\*\*「3. 病棟看護職員」は、各病院の一般病棟における人員配置である。

# 看護配置基準ごとの平均在院日数別の病院の分布

- 「一般病床を有する病院」においては、診療報酬上の一般病棟入院基本料算定別にみると、看護配置が手厚い病院ほど、平均在院日数が短い。
- 15対1病院においては、他の基本料の病院群に比べて、平均在院日数は幅広く分布している。

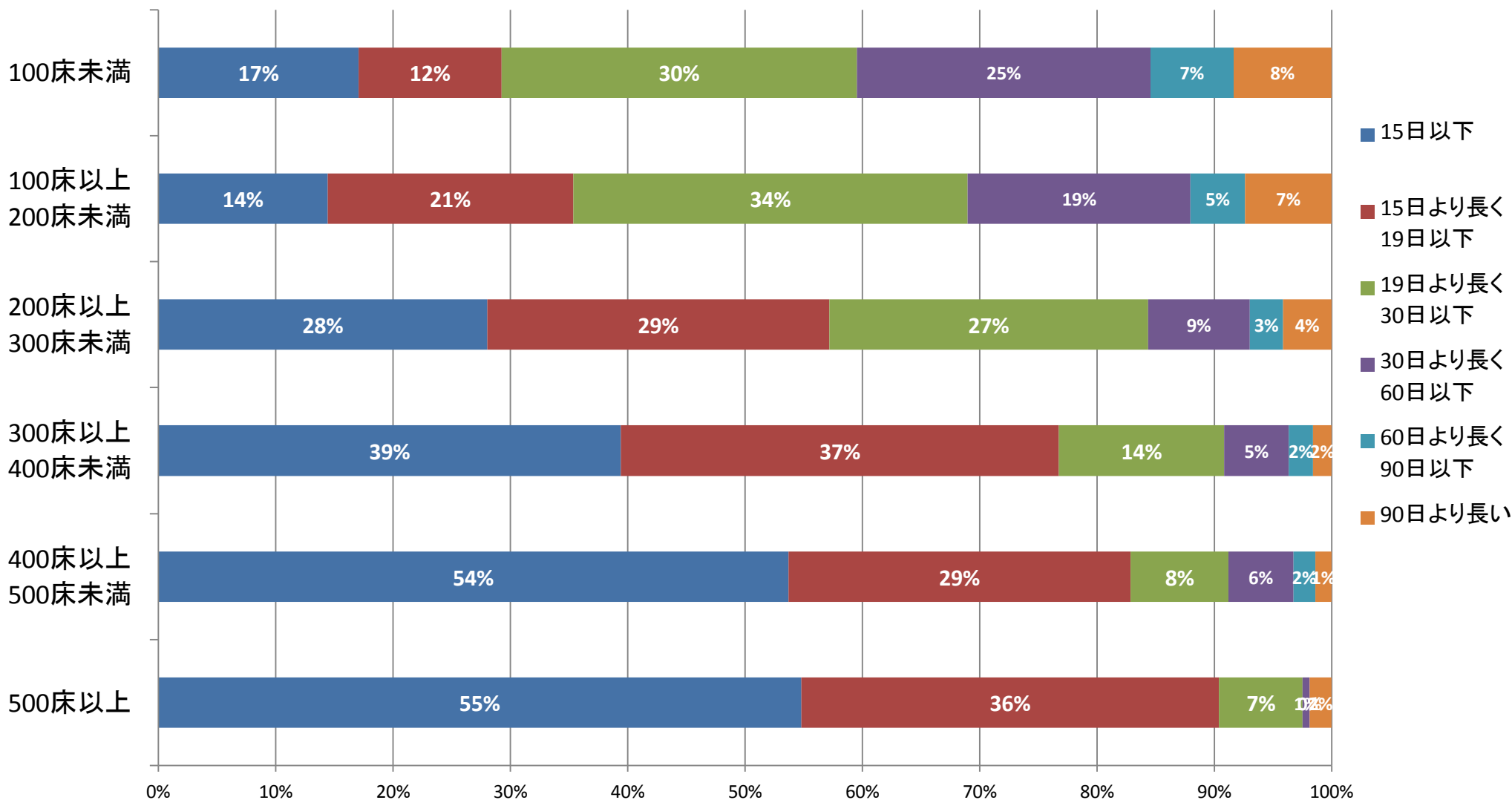
看護配置基準	7対1 (302病院)	10対1 (299病院)	13対1 (72病院)	15対1 (135病院)
平均在院日数	14.6日	16.2日	24.3日	36.4日

※「7対1」「10対1」「13対1」「15対1」の病院は、社会診療行為別調査の対象とされた病院数であり、全数ではない。



# 病床規模別の平均在院日数の分布

○一般病床の規模別に比較すると、病床の規模が大きい病院ほど、一般病床の平均在院日数は短い傾向にある。平均在院日数が19日以下の病院は、200床未満の病院では約3割、500床以上の病院では約9割であった。

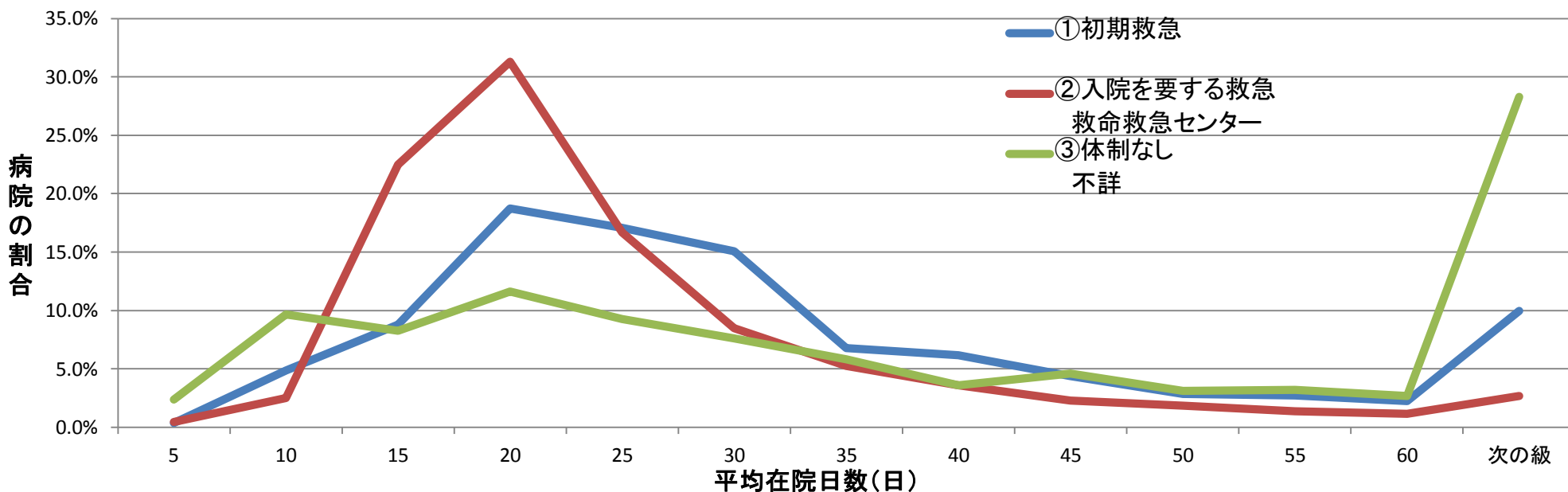


## I -② 一般病床で実施されている医療の内容について

# 救急医療体制の有無別の平均在院日数

- 「一般病床を有する病院」においては、「初期救急医療体制」を有する病院は約14%、「入院を要する救急医療体制（「救命救急センター」を含む。）」を有する病院は約53%。
- 「入院を要する救急医療体制（「救命救急センター」を含む。）」を有する病院の平均在院日数は、「初期救急医療体制」を有する病院に比べて約5日、救急医療体制がない病院に比べて約10日短い。

救急医療体制	平均在院日数
①初期救急医療 843病院 (14.0%)	21.7日
②入院を要する救急医療（救命救急センター214病院を含む） 3,187病院 (52.9%)	16.5日
③なし（不詳含む） 1,998病院 (33.1%)	26.4日

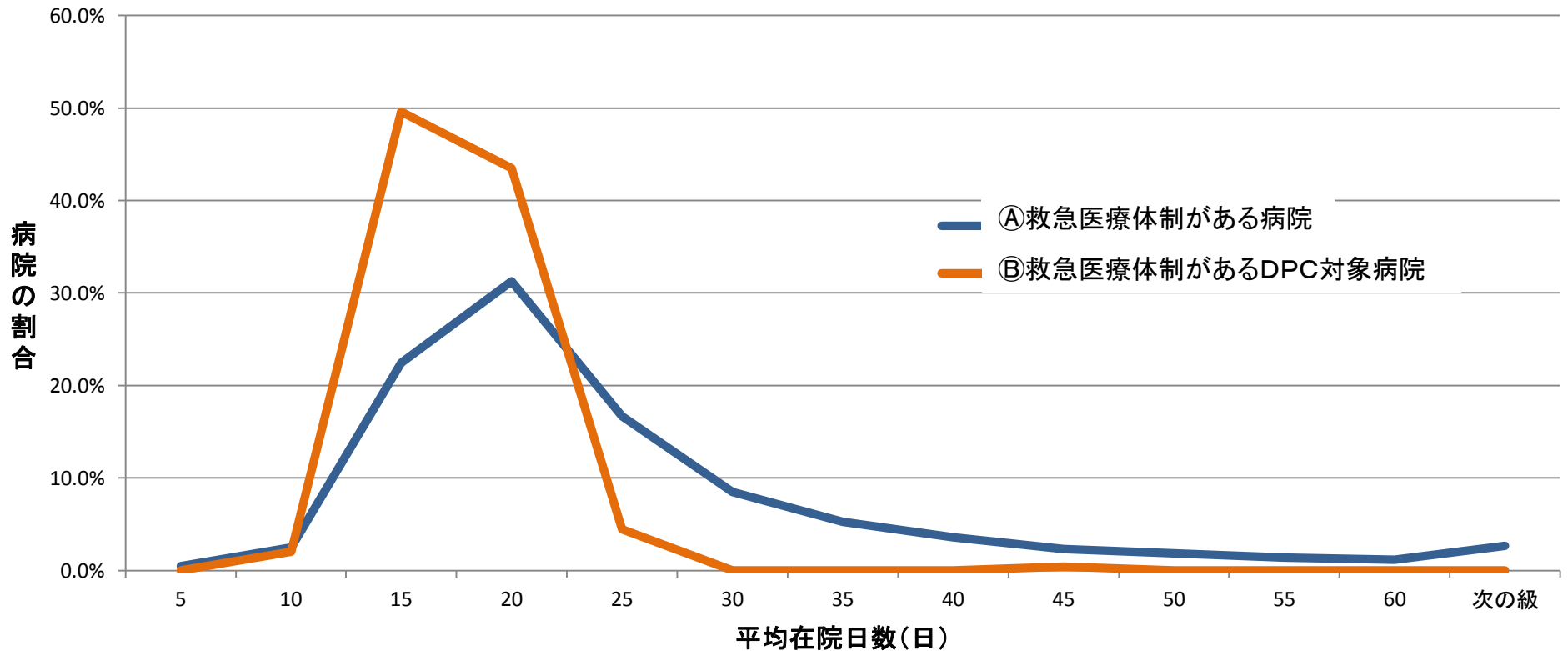


注) 初期救急医療体制・・・初期救急医療施設。比較的軽症な急病患者の診療を受け持つ休日・夜間急患センターと地区医師会の会員が当番制で診療を行う在宅当番医制をいう。  
 入院を要する救急医療体制・・・第二次救急医療施設。精神科救急を含む24時間体制の救急病院、病院輪番制方式による施設をいう。  
 救命救急センター・・・第三次救急医療施設。(高度救命救急センターを含む。)  
 体制なし・・・救急医療体制がない施設をいう。

# 救急医療体制の有無別の平均在院日数

- 分析対象のDPC対象病院263病院のうち、「入院を要する救急医療体制(「救命救急センター」を含む。)」がある病院は246病院。
- 「入院を要する救急医療体制(救命救急センターを含む。)」のうち分析対象のDPC対象病院をみると、平均在院日数は1.5日短い。

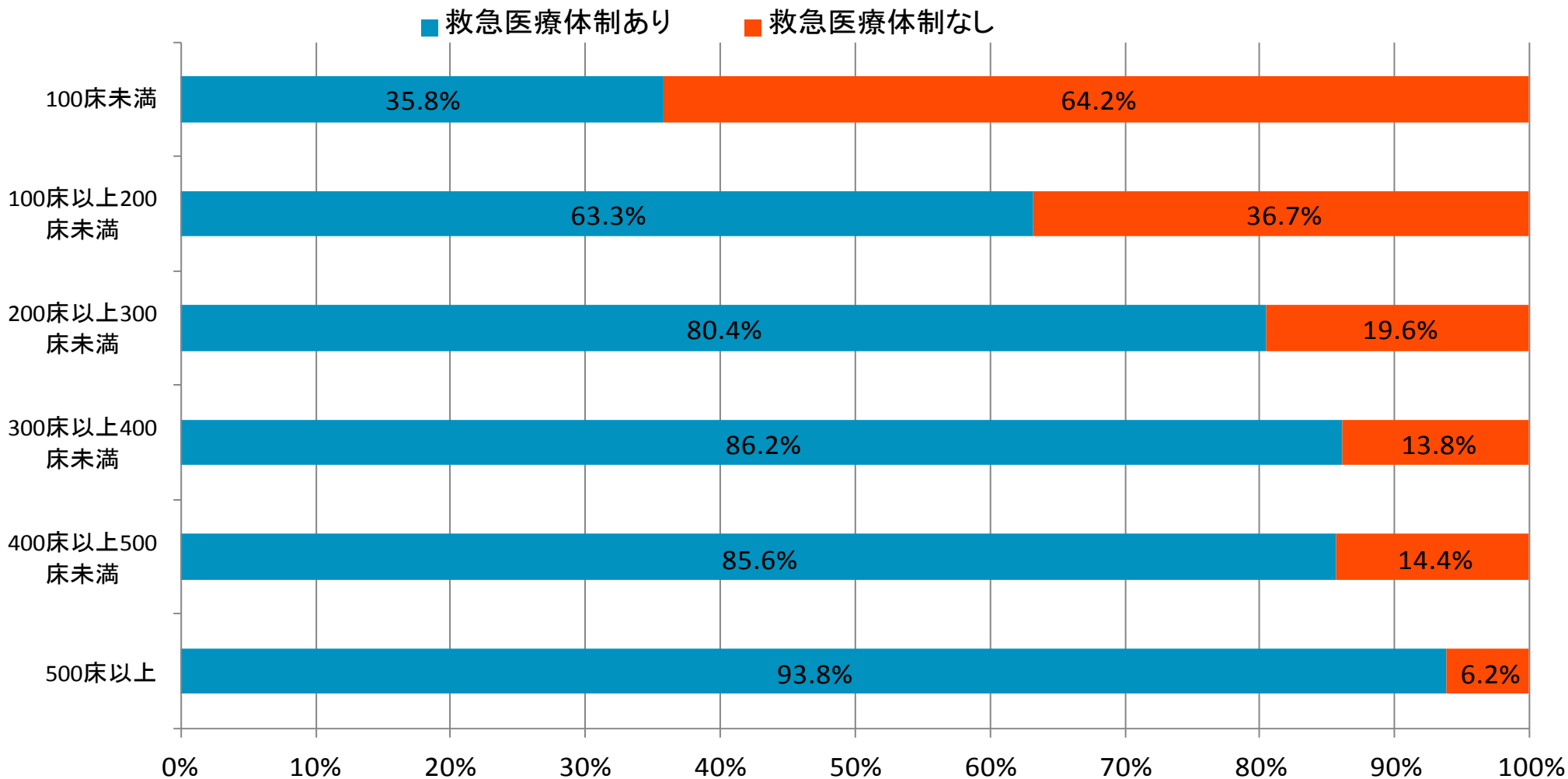
救急医療体制	平均在院日数
①入院を要する救急医療(救命救急センター含む)がある病院 3,187病院(52.9%)	16.5日
②入院を要する救急医療(救命救急センター含む)があるDPC対象病院 246病院(①の内数)(4.1%)	15.0日





# 病床規模別の救急医療体制の整備状況

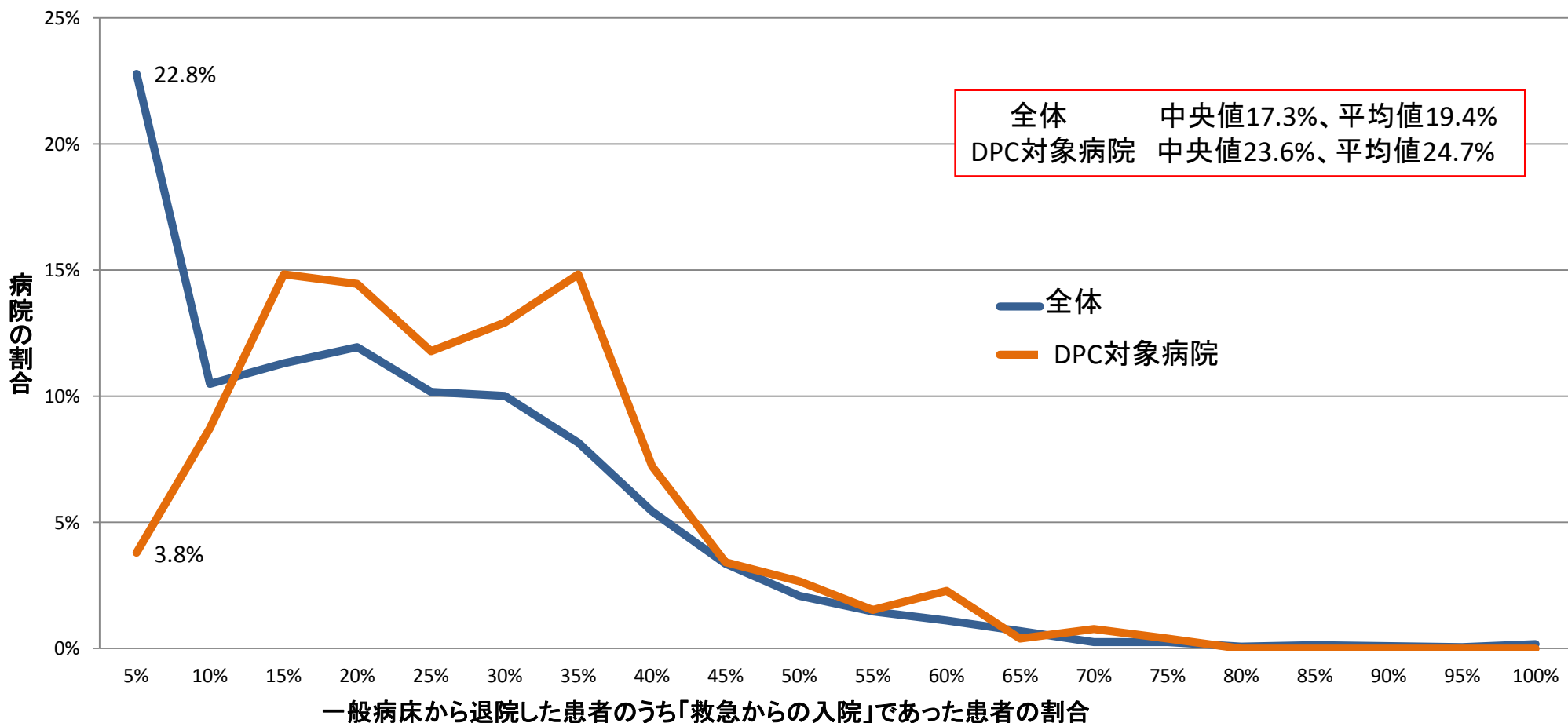
○一般病床の規模別にみると、100床未満の病院群においては、「入院を要する救急医療体制（救命救急センターを含む。）」がある病院は約36%、500床以上の病院群では約94%であった。



# 退院した患者のうち「救急からの入院」であった患者の割合

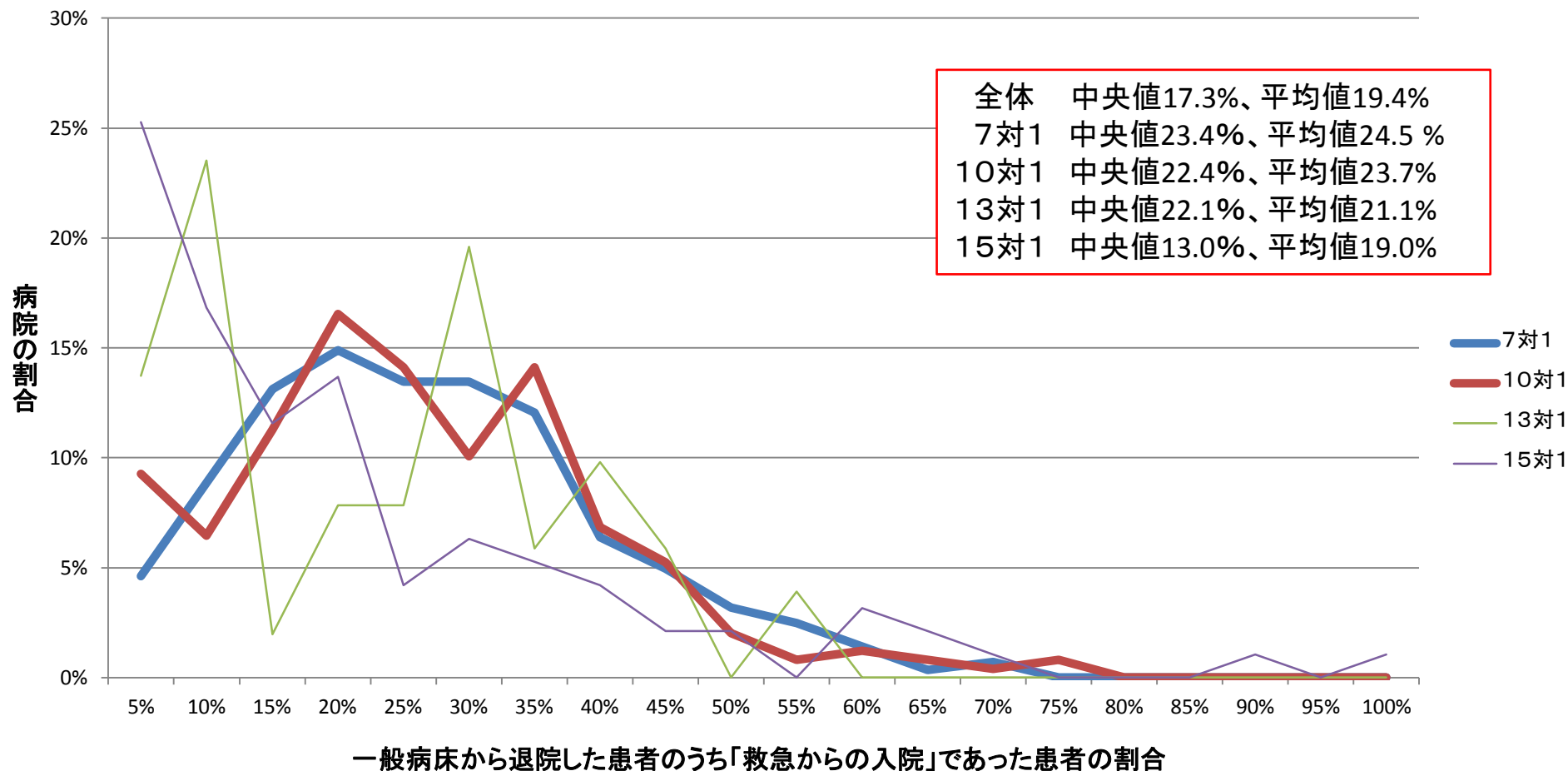
- 各病院における一般病床から退院した患者のうち、「救急からの入院\*」であった患者の割合について比較すると、中央値については、全体では約17%、分析対象のDPC対象病院では約24%であった。
- 「救急からの入院」であった患者の割合が5%以下の病院は、全体では約23%、分析対象のDPC対象病院では約4%であった。

\*「救急からの入院」とは、救急車、救急外来、診療時間外のいずれかにより入院した患者。



# 退院した患者のうち「救急からの入院」であった患者の割合

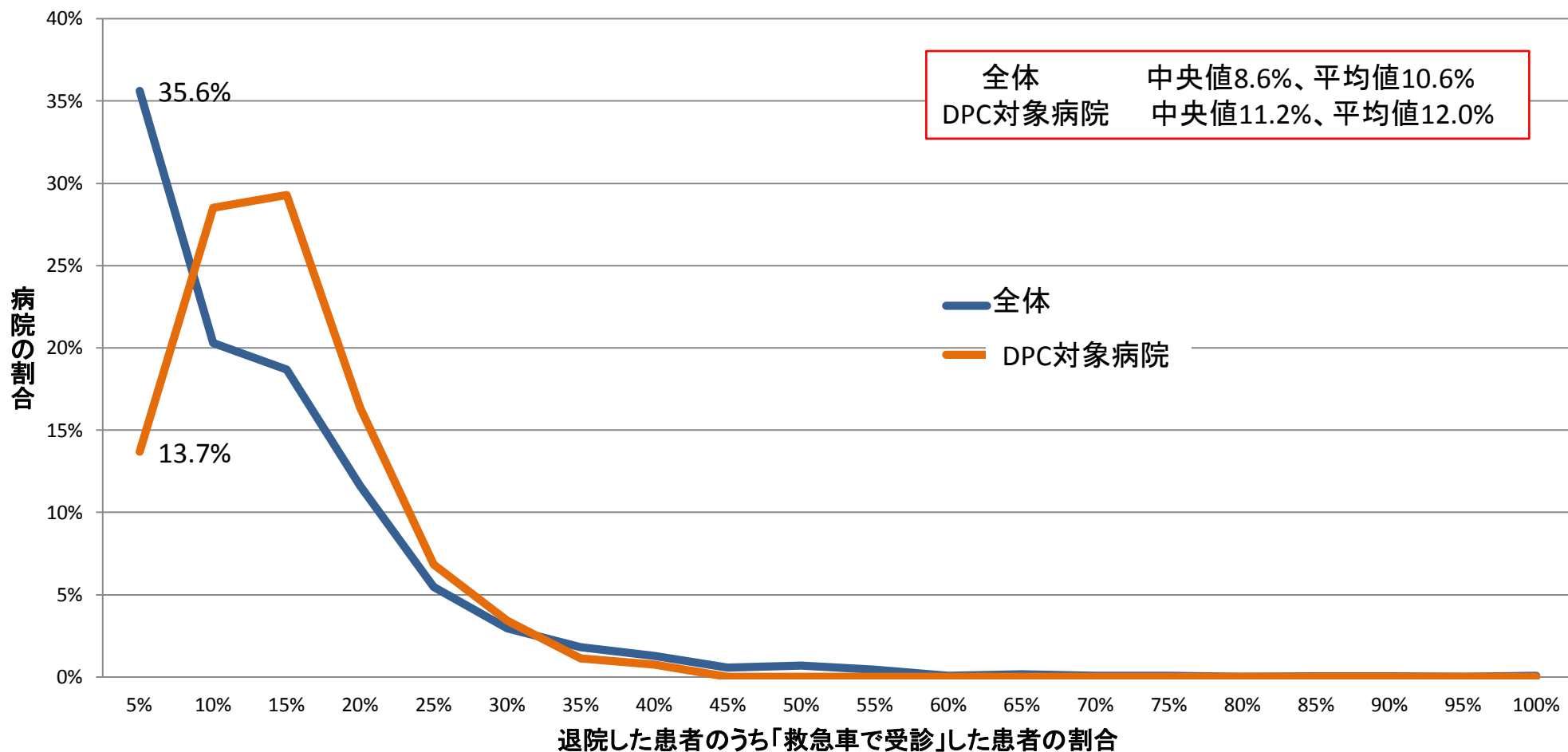
○各病院における一般病床から退院した患者のうち、「救急からの入院」であった患者の割合について、診療報酬上の一般病棟入院基本料算定別にみると、中央値については、7対1病院では約23%、15対1病院では約13%であり、看護配置が高い病院ほど、その割合は高い。



※「7対1」「10対1」「13対1」「15対1」の病院は、社会診療行為別調査の対象とされた病院数であり、全数ではない。

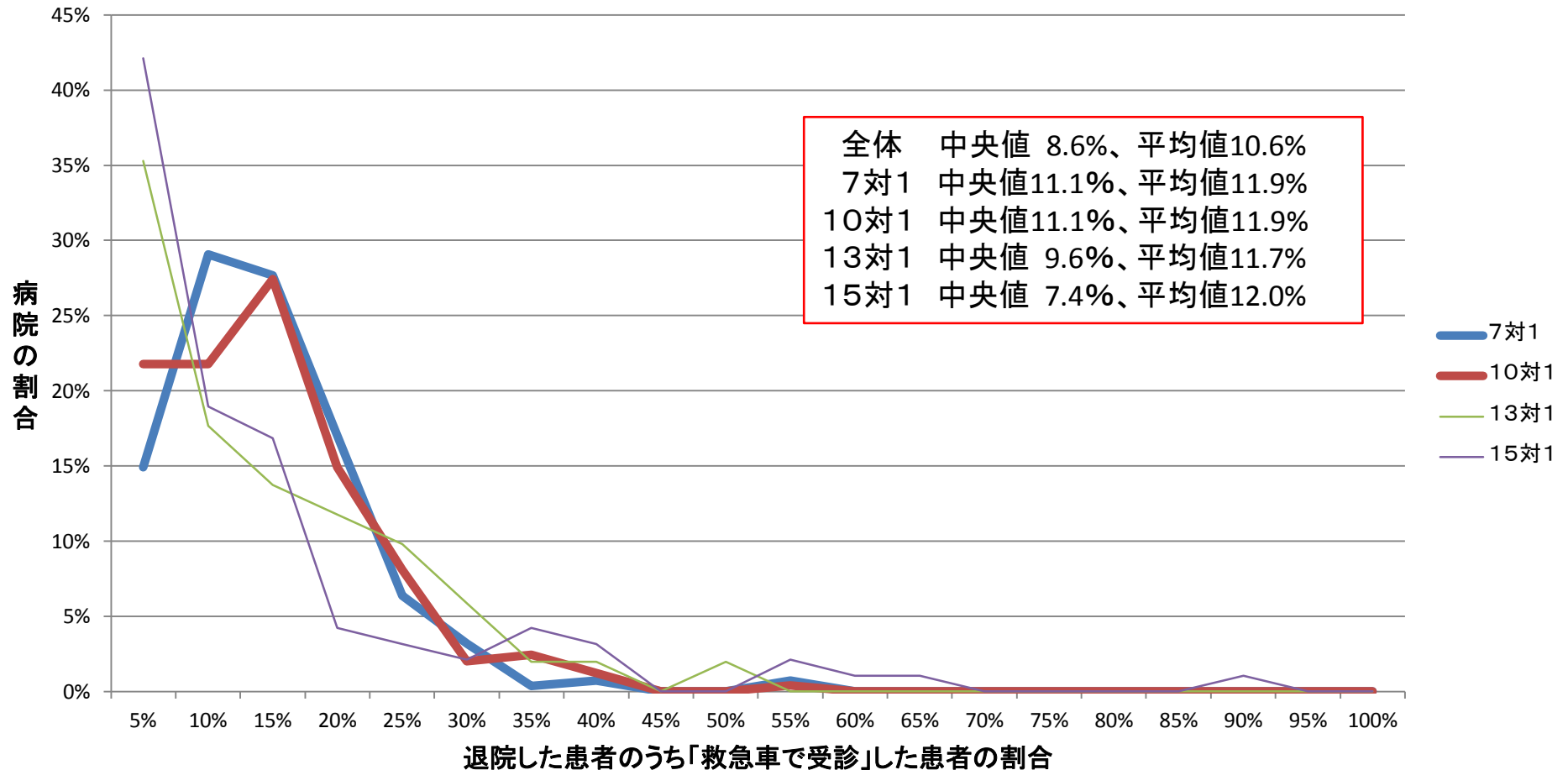
# 退院した患者のうち「救急車で受診」した患者の割合

- 一般病床から退院した患者のうち、「救急車で受診」した患者の割合について、中央値で見ると、全体では約9%、分析対象のDPC対象病院では約11%であった。
- 「救急車で受診」した患者の割合が5%以下の病院は、全体では約36%、分析対象のDPC対象病院では約14%であった。



# 退院した患者のうち「救急車で受診」した患者の割合

○一般病床から退院した患者のうち、「救急車で受診」した患者の割合について、診療報酬上の一般病棟入院基本料算定別にみると、中央値については、7対1病院及び10対1病院では約11%であり、15対1病院では約7%であった。



※「7対1」「10対1」「13対1」「15対1」の病院は、社会医療診療行為別調査の対象とされた病院数であり、全数ではない。 20

「平成20年患者調査」「平成20年社会医療診療行為別調査」を基に医政局で作成

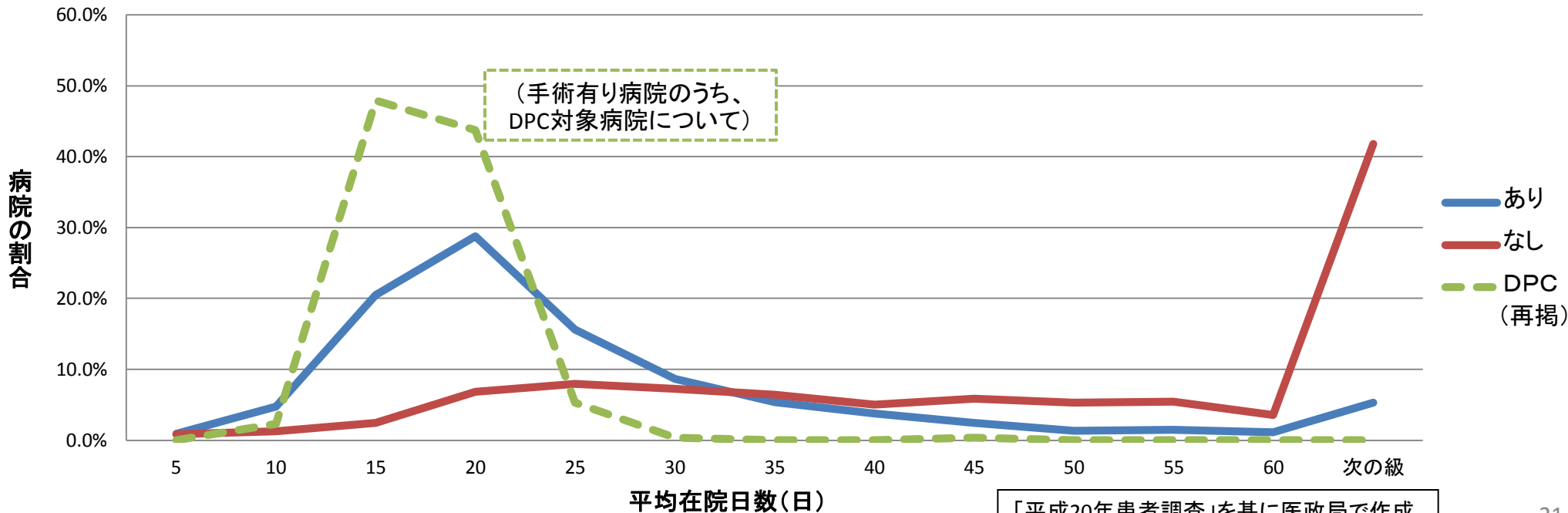
# 手術の有無別の平均在院日数

- 「一般病床を有する病院」においては、手術を実施する病院は約83%。
- 手術実施の有無別で平均在院日数をみると、手術有りの病院の平均在院日数は約17日であり、手術なしの病院に比べて約39日短い。
- 分析対象のDPC対象病院については、すべて手術有りの病院に含まれている。

**手術あり**  
**3,622病院(83.2%)**

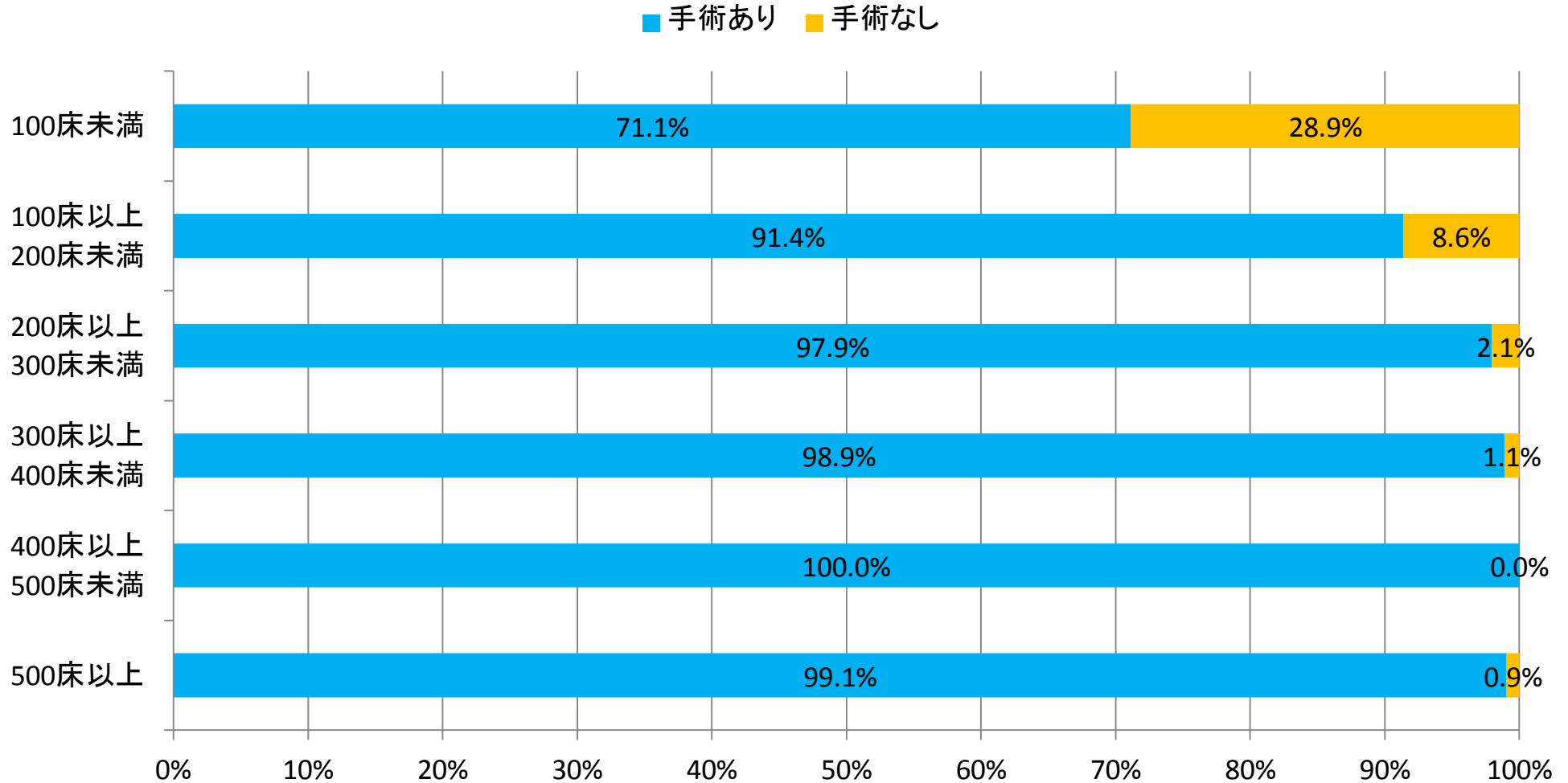
※患者調査によるため、  
分析対象は4,354病院。

手術	平均在院日数
あり(3,622病院) (DPC対象病院263を含む。)	16.8日
なし(732病院)	55.9日
全体(4,354病院)	17.6日



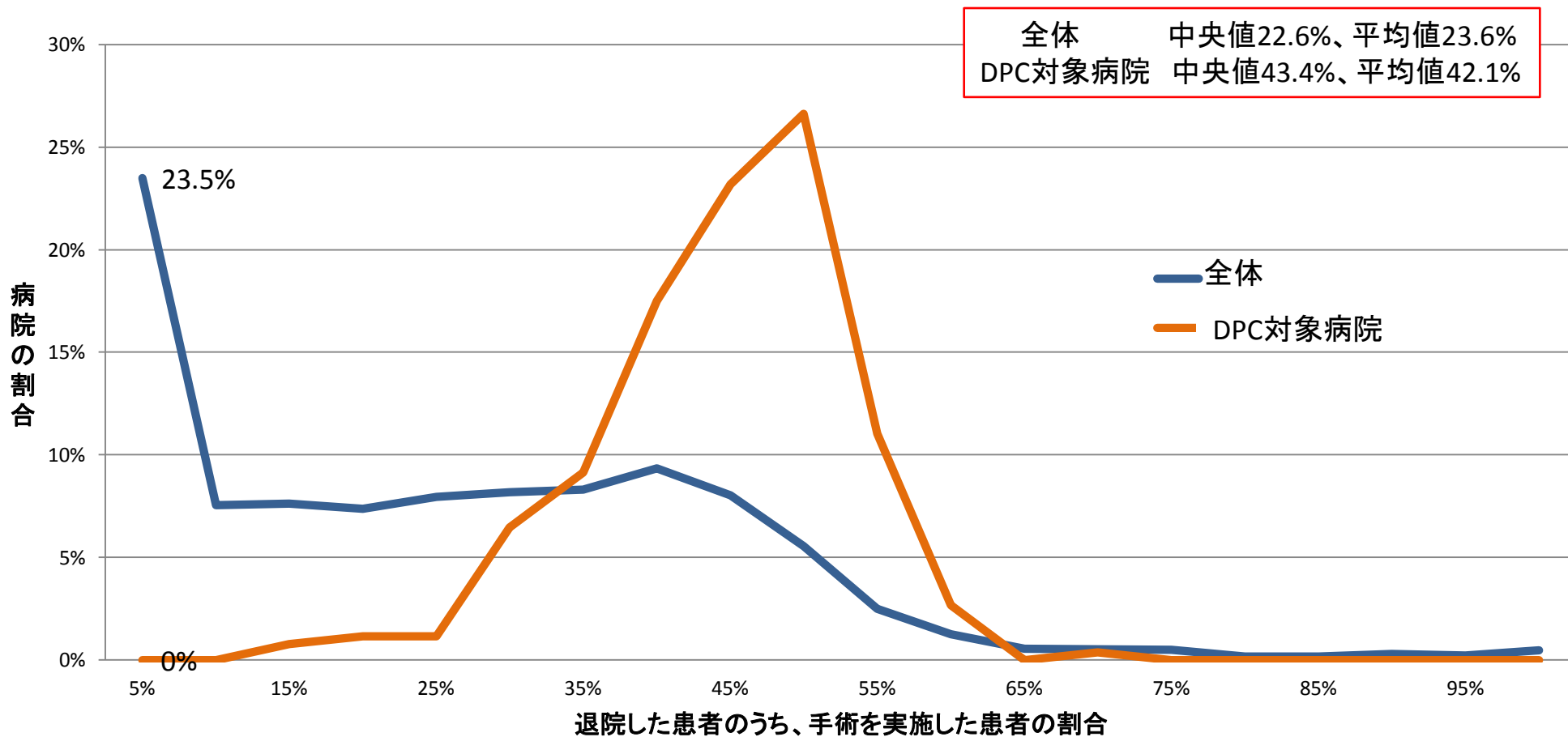
# 病床規模別の手術の実施状況

○一般病床の規模別にみると、手術を実施する病院の割合は、100床未満の病院群では約71%と最も低く、200床以上の病院群では95%以上であった。



# 退院した患者のうち「手術を実施した患者」の割合

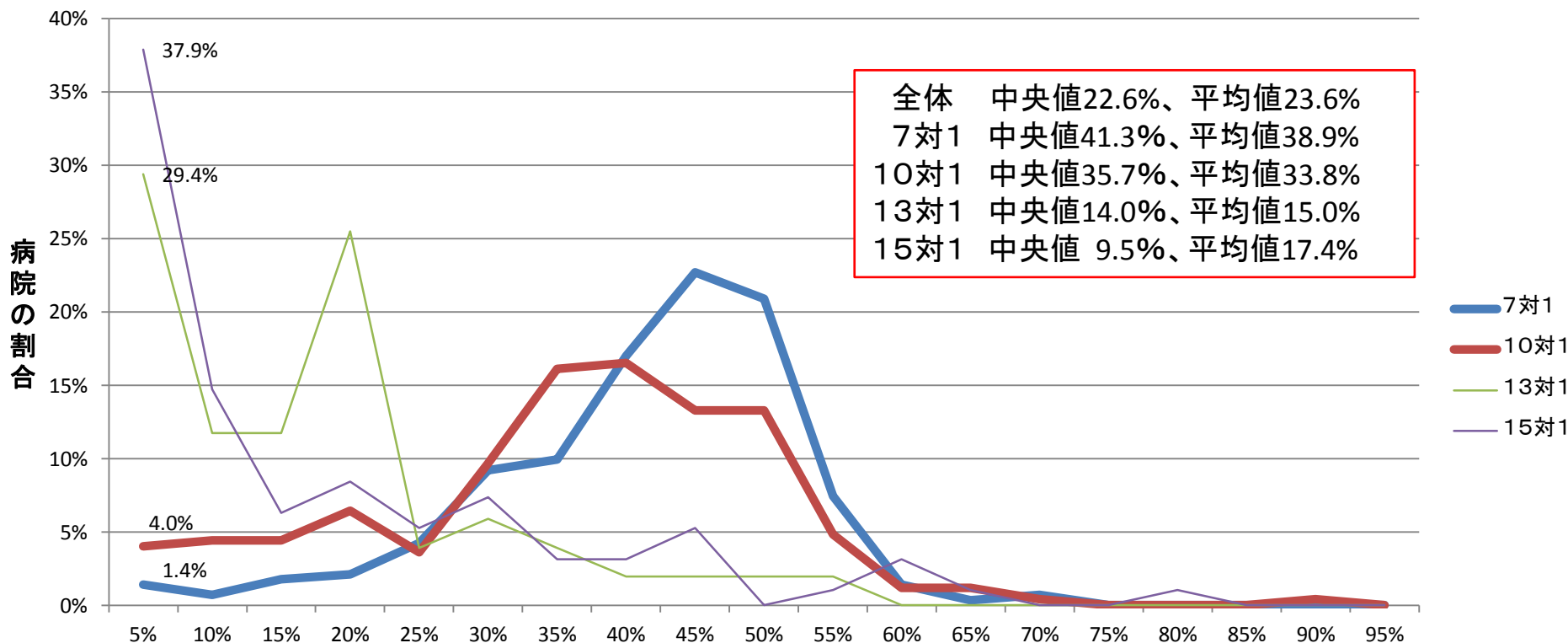
- 「一般病床を有する病院」全体においては、一般病床から退院した患者のうち、手術を実施した患者の割合の中央値は、約23%。手術を実施した患者の割合が5%以下(手術患者なしを含む。)の病院は、全体の約24%。
- 分析対象のDPC対象病院においては、一般病床から退院した患者のうち、手術を実施した患者の割合の中央値は約43%。手術を実施した患者の割合が5%以下(手術患者なしを含む。)の病院はない。





# 退院した患者のうち「手術を実施した患者」の割合

- 一般病床から退院した患者のうち、手術を実施した患者の割合について、診療報酬上の一般病棟入院基本料算定別にみると、中央値については、7対1病院では約41%、15対1病院では約10%であった。
- 手術を実施した患者の割合が5%以下(手術患者なしを含む。)の病院は、7対1病院では約1%、15対1病院では約38%であった。



退院した患者のうち、手術を実施した患者の割合

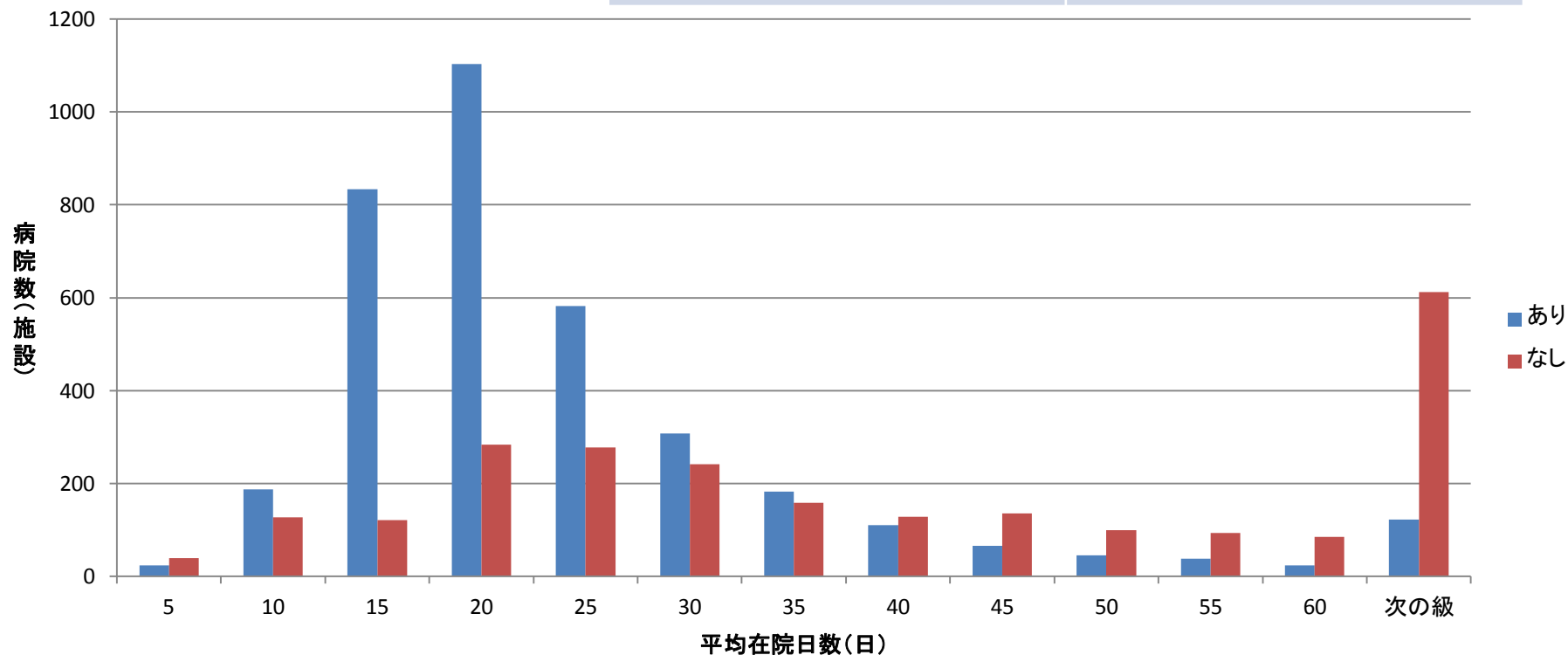
※「7対1」「10対1」「13対1」「15対1」の病院は、社会医療診療行為別調査の対象とされた病院数であり、全数ではない。

# 全身麻酔の有無別の平均在院日数

○「一般病床を有する病院」においては、全身麻酔による手術を実施している病院は、実施していない病院に比べて、平均在院日数が約14日短い。

**全身麻酔あり  
3,626病院(60.2%)**

全身麻酔	平均在院日数
あり(3,626病院)	16.7日
なし(2,402病院)	31.1日
全体(6,028病院)	18.0日

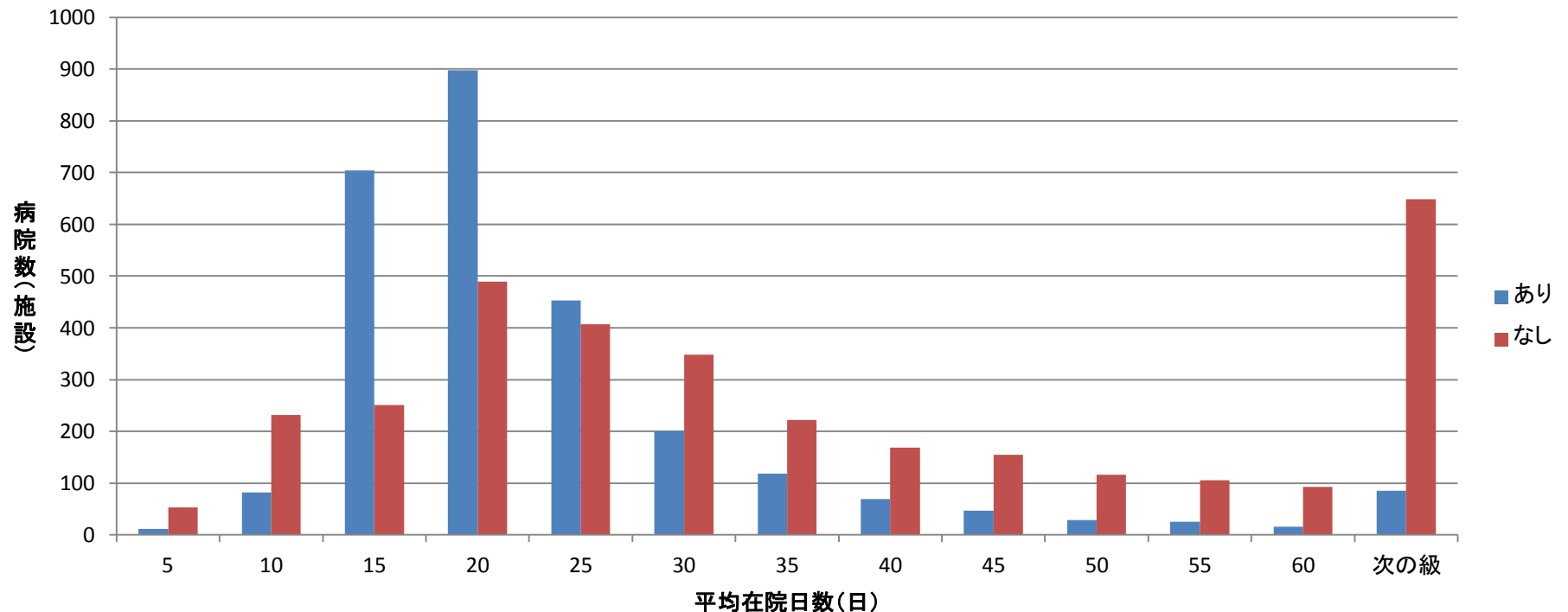


# 内視鏡下手術の有無別の平均在院日数

○「一般病床を有する病院」においては、内視鏡下手術を実施している病院は、実施していない病院に比べて、平均在院日数が約8日短い。

**内視鏡下手術あり  
2,738病院(45.4%)**

内視鏡下手術	平均在院日数
あり(2,738病院)	16.3日
なし(3,290病院)	24.4日
全体(6,028病院)	18.0日

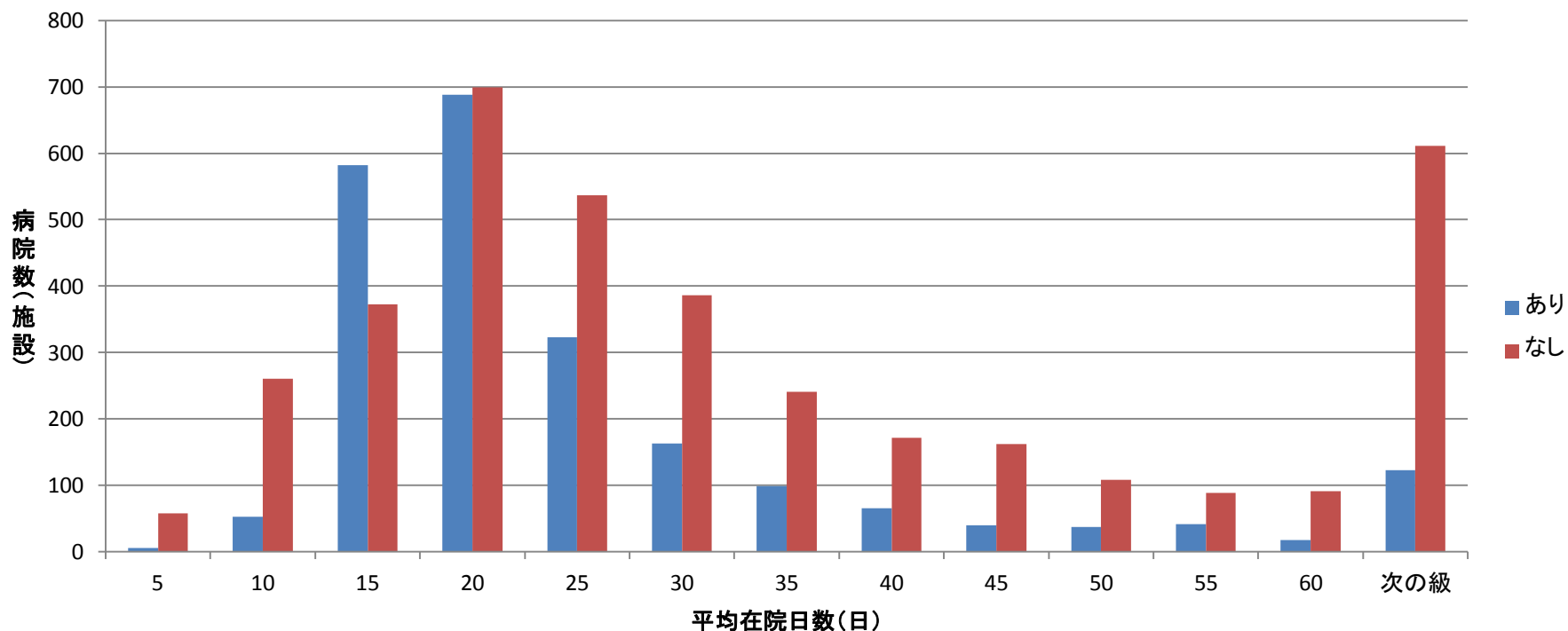


# 人工透析の有無別の平均在院日数

○「一般病床を有する病院」においては、人工透析を実施している病院は、実施していない病院に比べて、平均在院日数が約6日短い。

**人工透析あり**  
**2,240病院(37.2%)**

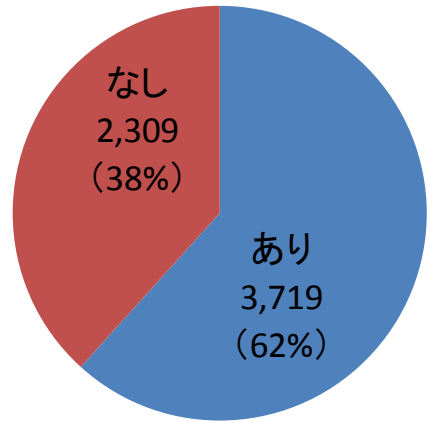
人工透析	平均在院日数
あり(2,240病院)	16.2日
なし(3,788病院)	22.5日
全体(6,028病院)	18.0日



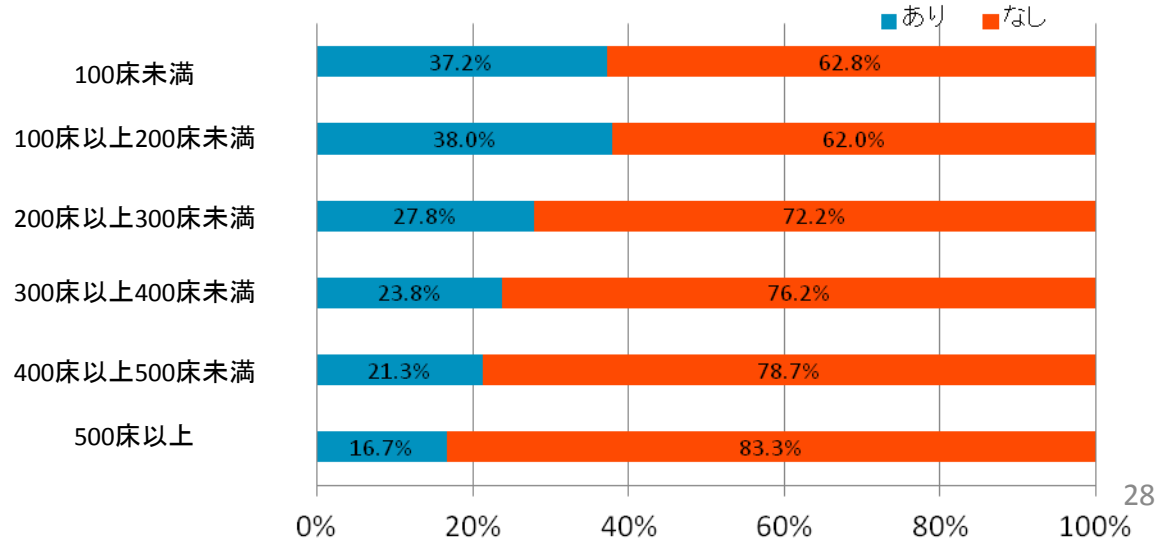
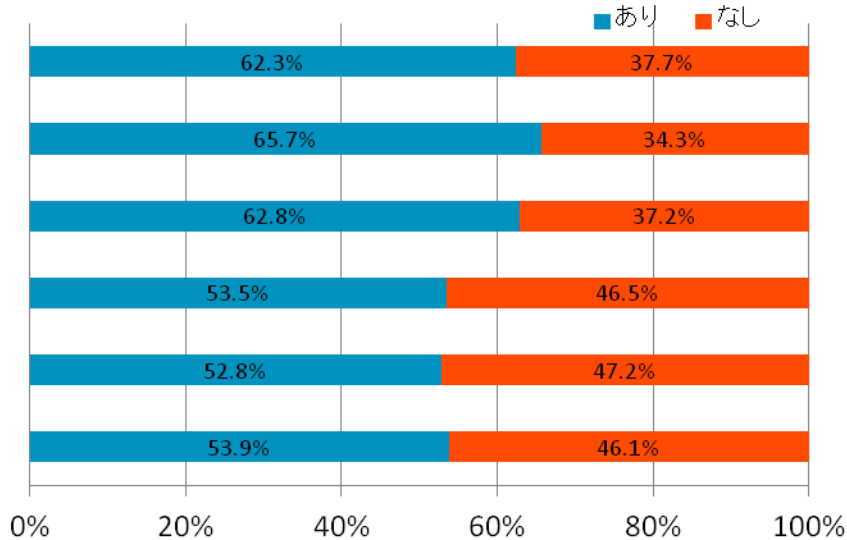
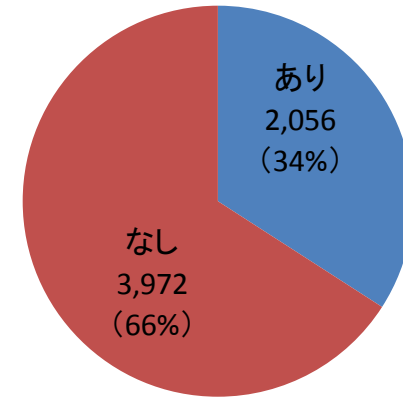
# 在宅サービスの実施状況

- 「一般病床を有する病院」においては、医療保険等による在宅サービスを実施している病院は62%、介護保険による在宅サービスを実施している病院は34%であった。
- 病床の規模別に在宅サービスの実施状況を見ると、病床の規模が小さい病院においては、在宅サービスの実施割合が高い。

医療保険等による在宅サービス



介護保険による在宅サービス

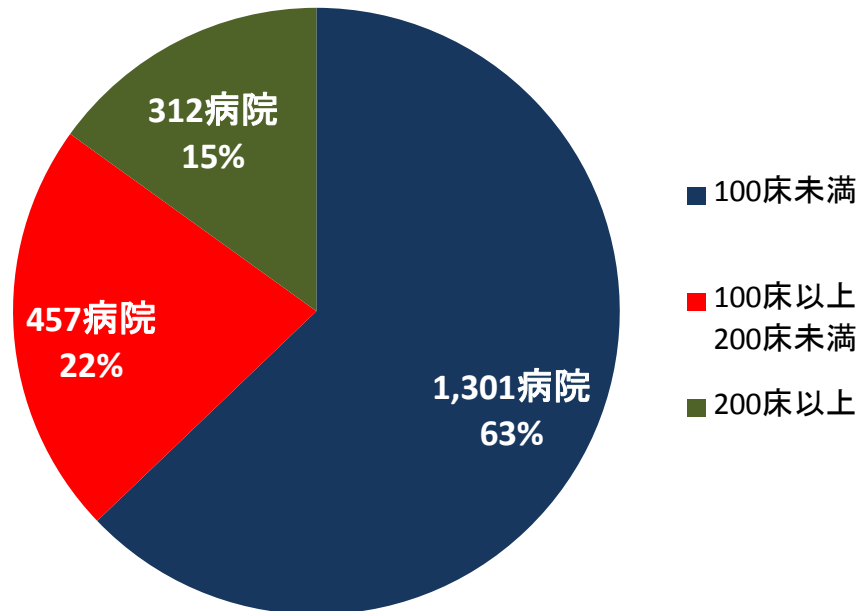


# 在宅患者訪問診療の実施状況

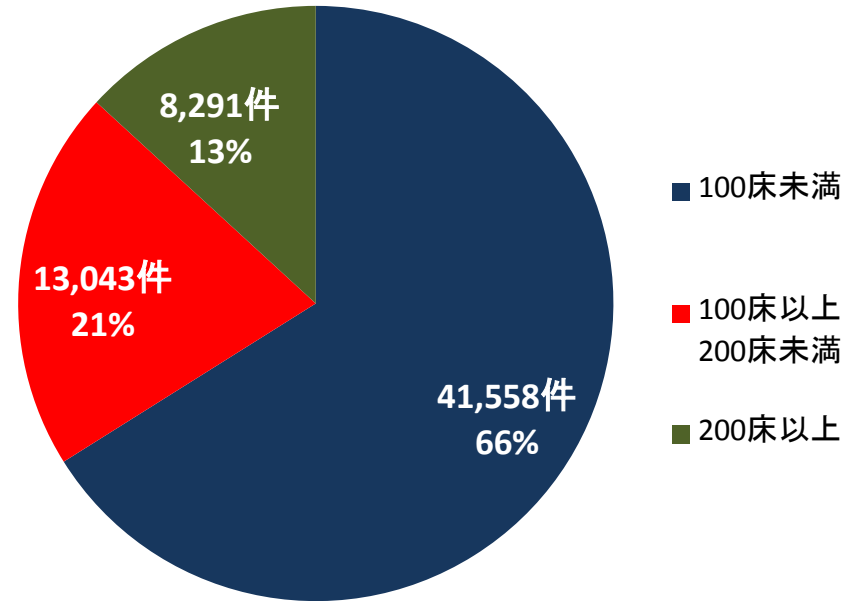
○「一般病床を有する病院」における在宅患者訪問診療の実施については、実施病院の約6割が100床未満の病院であった。また、実施件数についても約7割が100床未満の病院によるものであった。

在宅患者 訪問診療	全体	100床未満	100床以上 200床未満	200床以上
病院数	2,070	1,301	457	312
実施数	62,892	41,558	13,043	8,291

## 在宅患者訪問診療実施病院



## 在宅患者訪問診療実施件数



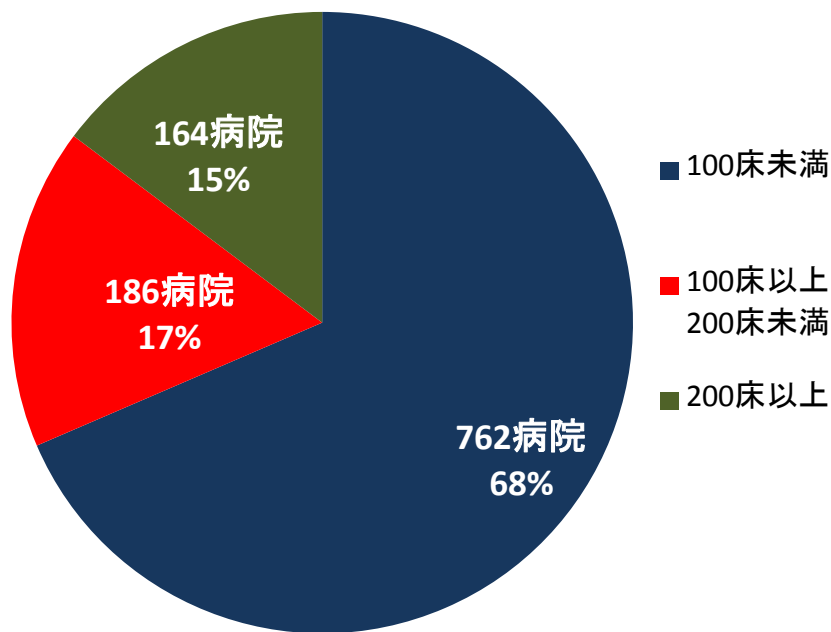
「平成20年医療施設静態調査」を基に医政局で作成

# 在宅患者への往診の実施状況

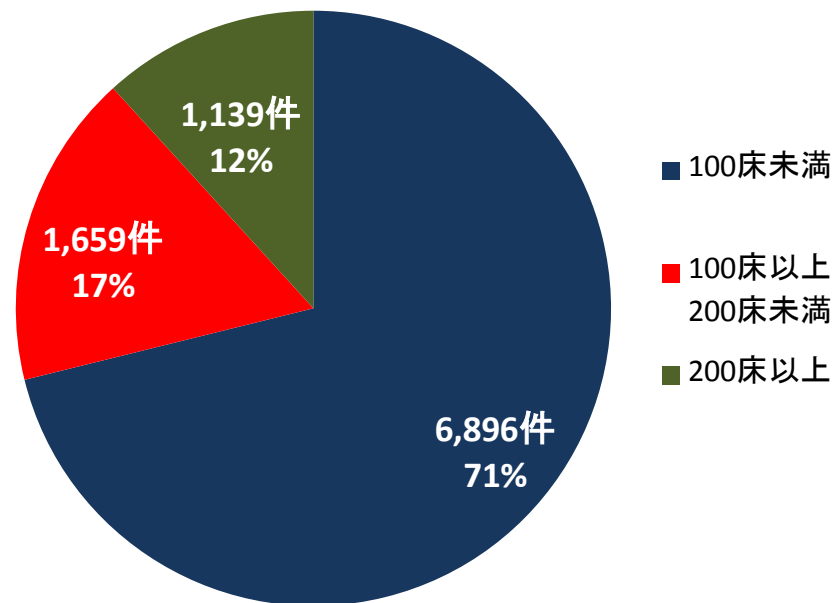
○「一般病床を有する病院」における往診の実施については、実施病院の約7割が100床未満の病院であった。また、実施件数についても約7割が100床未満の病院によるものであった。

往診	全体	100床未満	100床以上 200床未満	200床以上
病院数	1,112	762	186	164
実施数	9,694	6,896	1,659	1,139

## 往診実施病院



## 往診実施件数



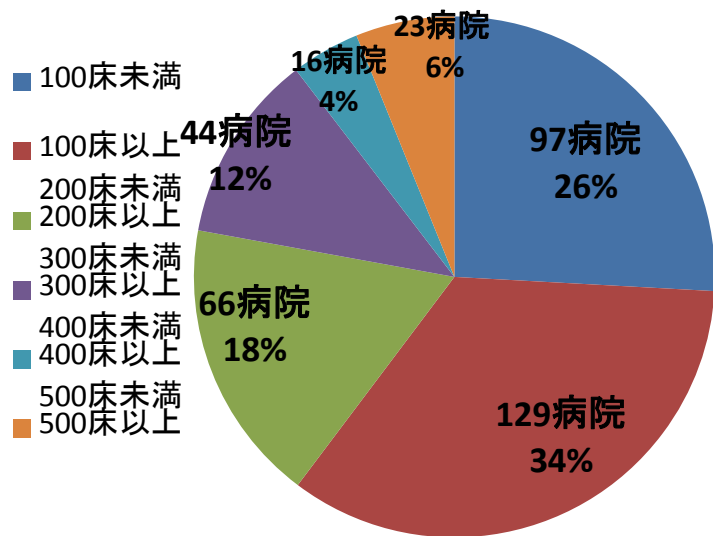
「平成20年医療施設静態調査」を基に医政局で作成

# 回復期リハビリテーション病床

- 「一般病床を有する病院」においては、一般病床の回復期リハビリテーション病床（以下「回復期リハ病床」という。）を有する病院が375施設。そのうち、200床未満の病院の割合は、約6割であった。
- 一般病床に占める回復期リハ病床の割合については、病床規模別にみると200床未満の病院において回復期リハ病床の割合が高い病院が多い。

## 回復期リハ病床を有する病院 375施設（6.2%）

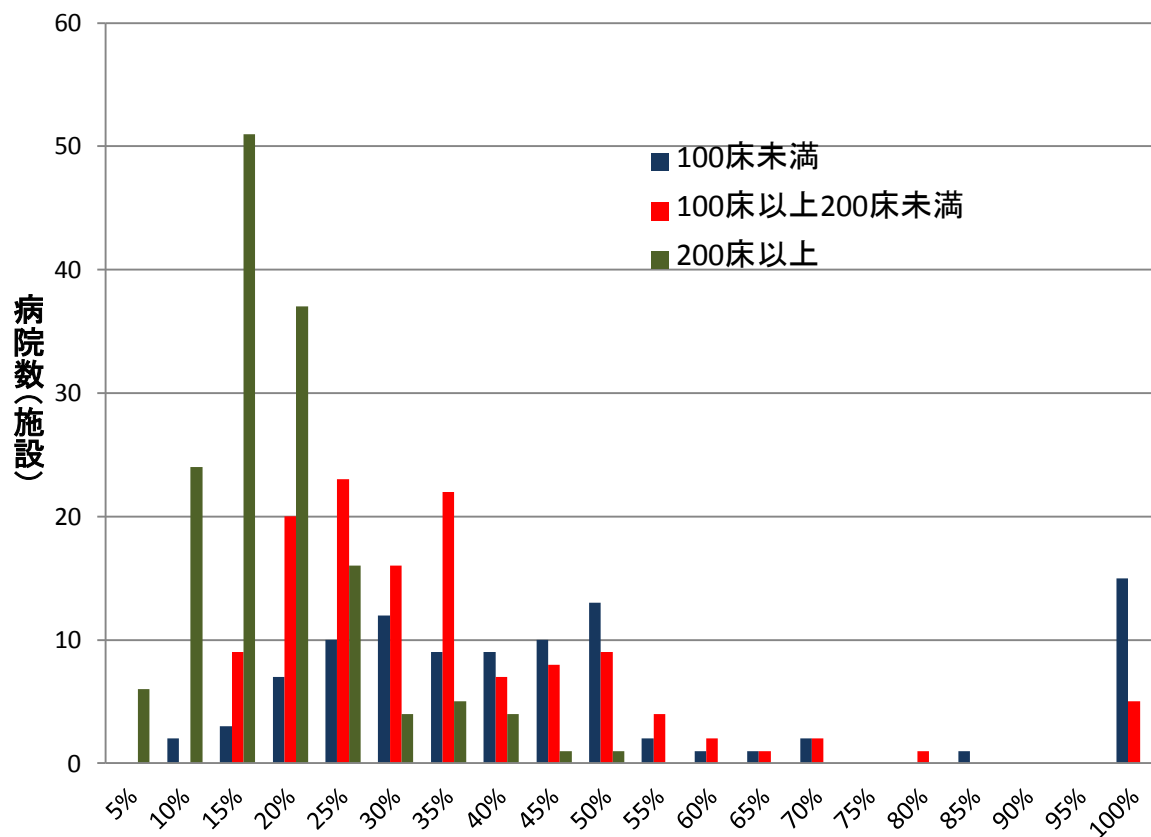
病床規模別にみた回復期リハ病床を有する病院



病床規模別の病院に対する  
回復期リハ病床を有する病院の割合

100床未満	100床以上 200床未満	200床以上 300床未満	300床以上 400床未満	400床以上 500床未満	500床以上
2.8%	10.6%	14.3%	11.5%	7.4%	7.1%

病床規模別の病院における一般病床に占める回復期リハ病床の割合の分布



一般病床に占める回復期リハ病床の割合



## I -③ 病院が有する体制について

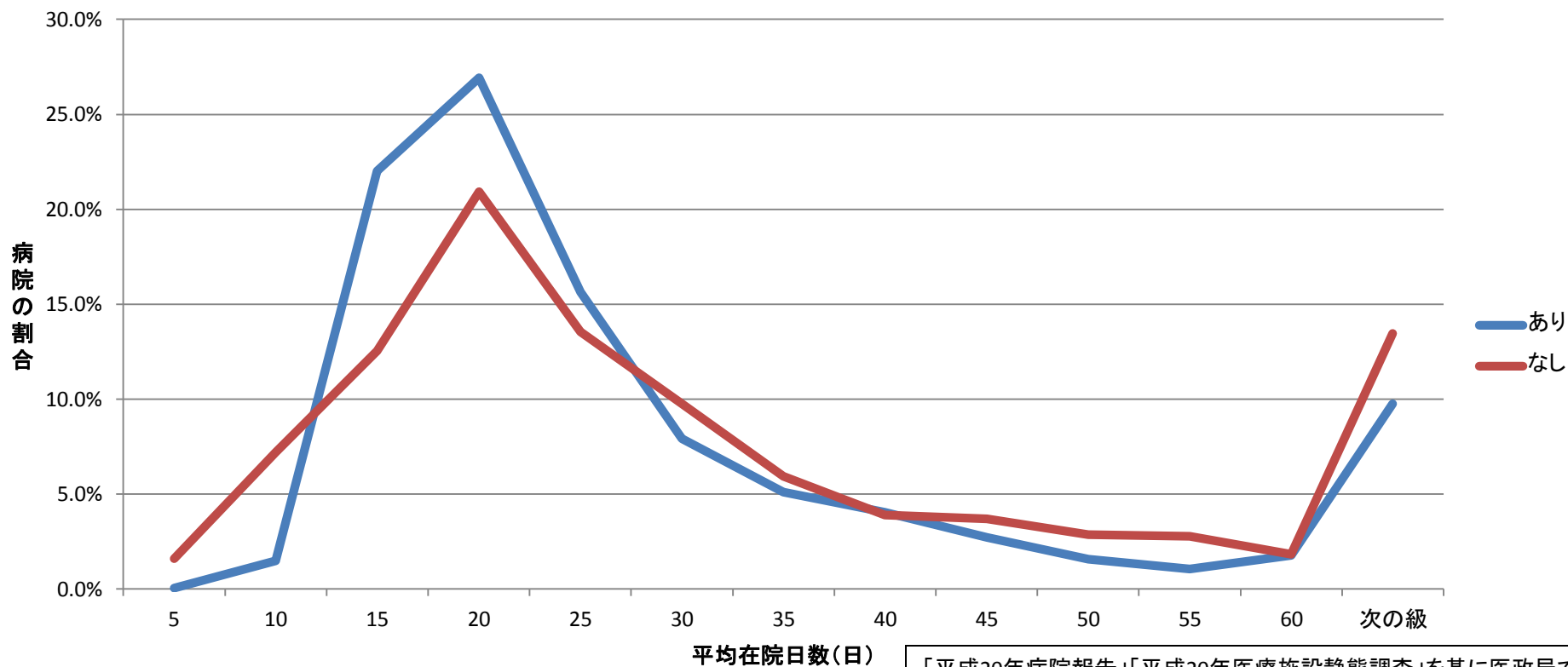
# 退院調整支援担当者の有無別の平均在院日数

○「一般病床を有する病院」においては、退院調整支援担当者を有する病院の割合は、約35%。

○退院調整支援担当者を有する病院の平均在院日数は、退院調整支援担当者を有しない病院に比べて約2日短い。

**退院調整支援担当者あり  
2,099病院(34.8%)**

対象病院	平均在院日数(日)
体制あり(2,099)	17.2日
体制なし(3,929)	19.0日
全体(6,028)	18.0日

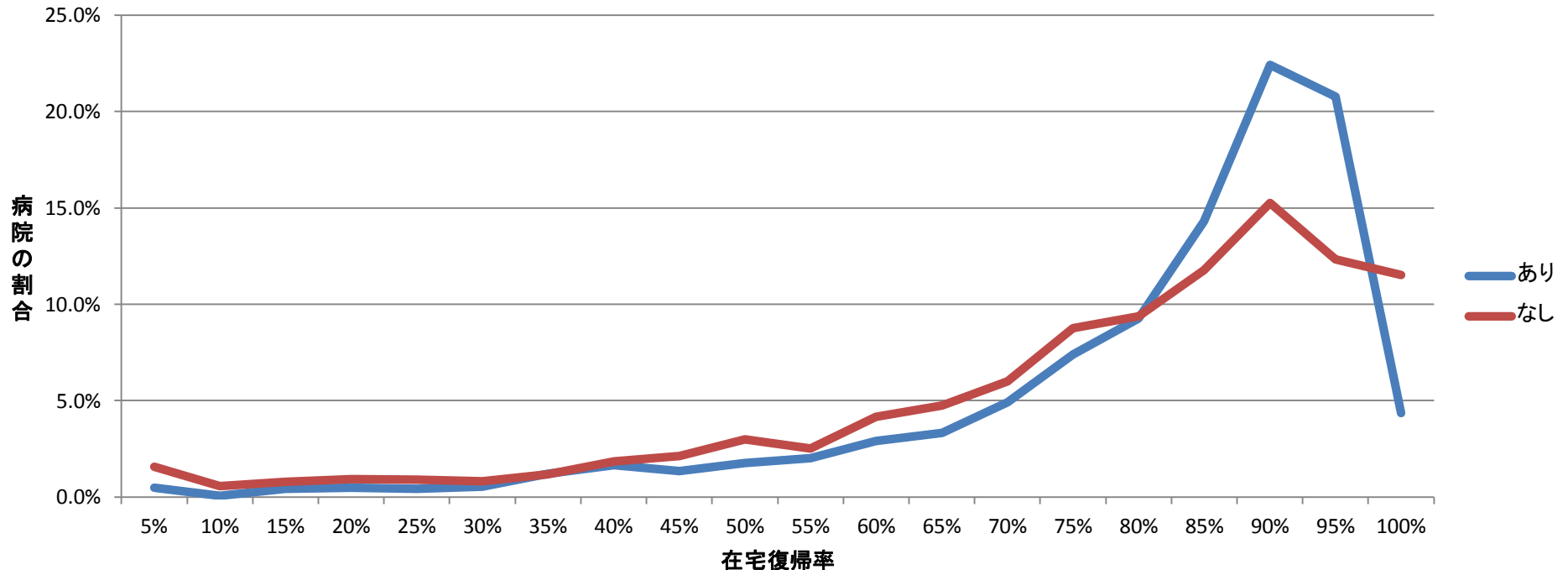


# 退院調整支援担当者の有無別の在宅復帰率

○退院調整支援担当者を有する病院は、中央値及び平均値で見ると、有しない病院に比べて、患者の在宅復帰率がともに約4%高い。

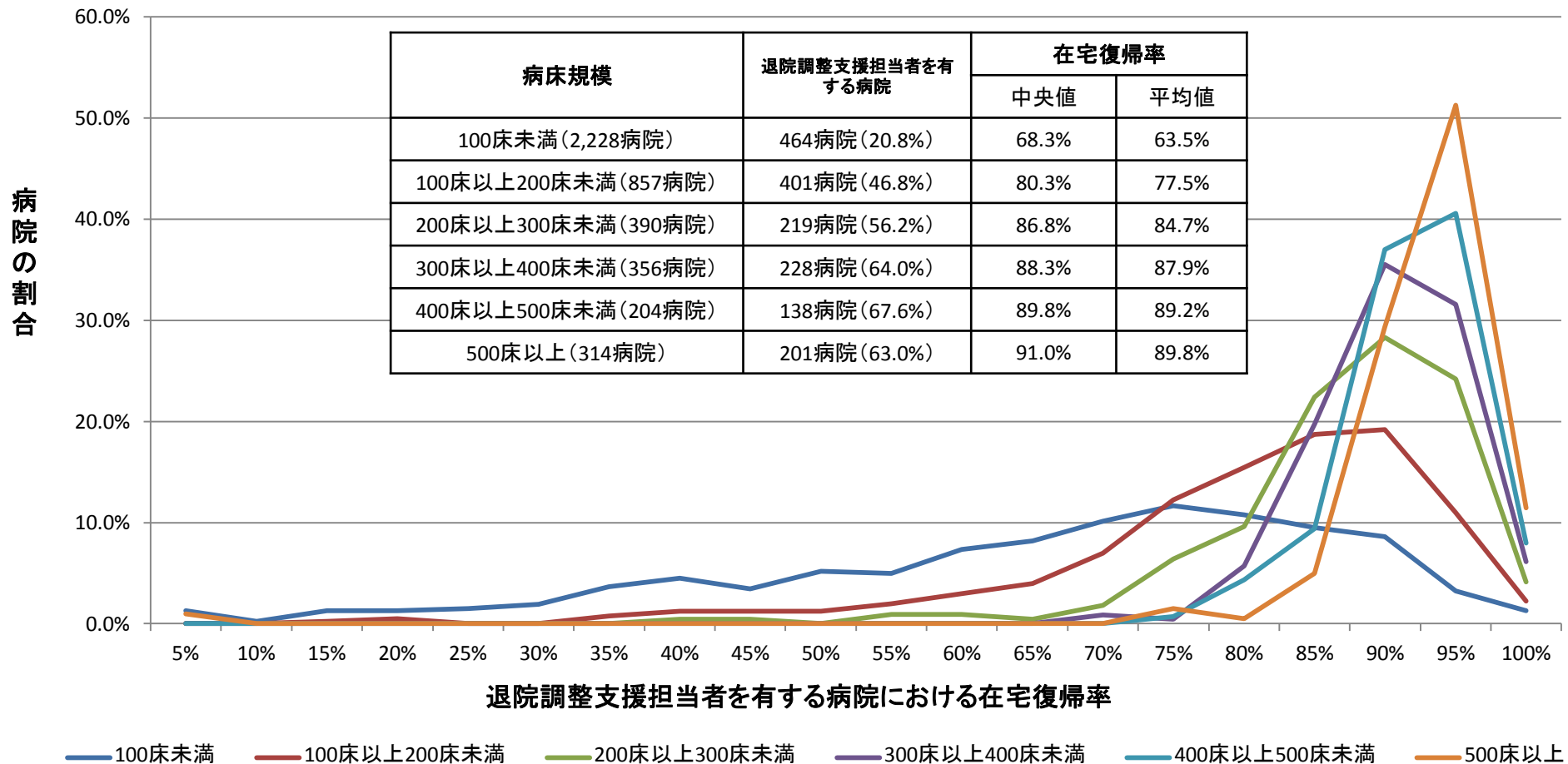
退院調整支援担当者	在宅復帰率	
	中央値	平均値
あり(1,651病院)	84.4%	78.4%
なし(2,703病院)	80.6%	74.4%

退院調整支援担当者の有無別の在宅復帰率



# 退院調整支援担当者を有する病院における病床規模別の在宅復帰率

- 病床規模別に退院調整支援担当者の有無をみたところ、100床未満の病院で退院調整支援担当者を有する病院の割合は約21%であり、500床以上の病院では約63%であった。
- 退院調整支援担当者を有する病院(1,651病院)について、病床規模別にその在宅復帰率をみたところ、病床規模が大きいほど、患者の在宅復帰率は高くなる。

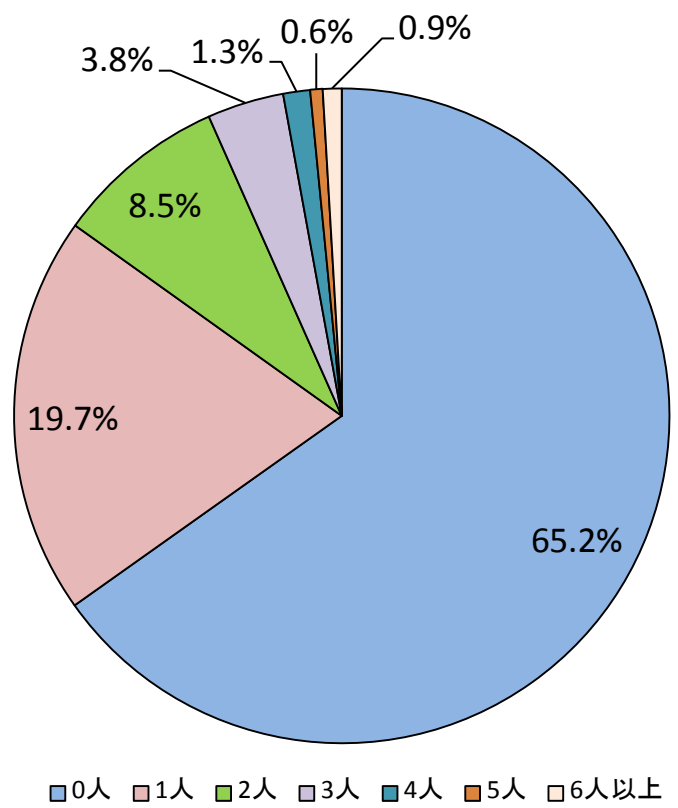


# 退院調整支援担当者及び医療安全体制についての責任者の配置状況

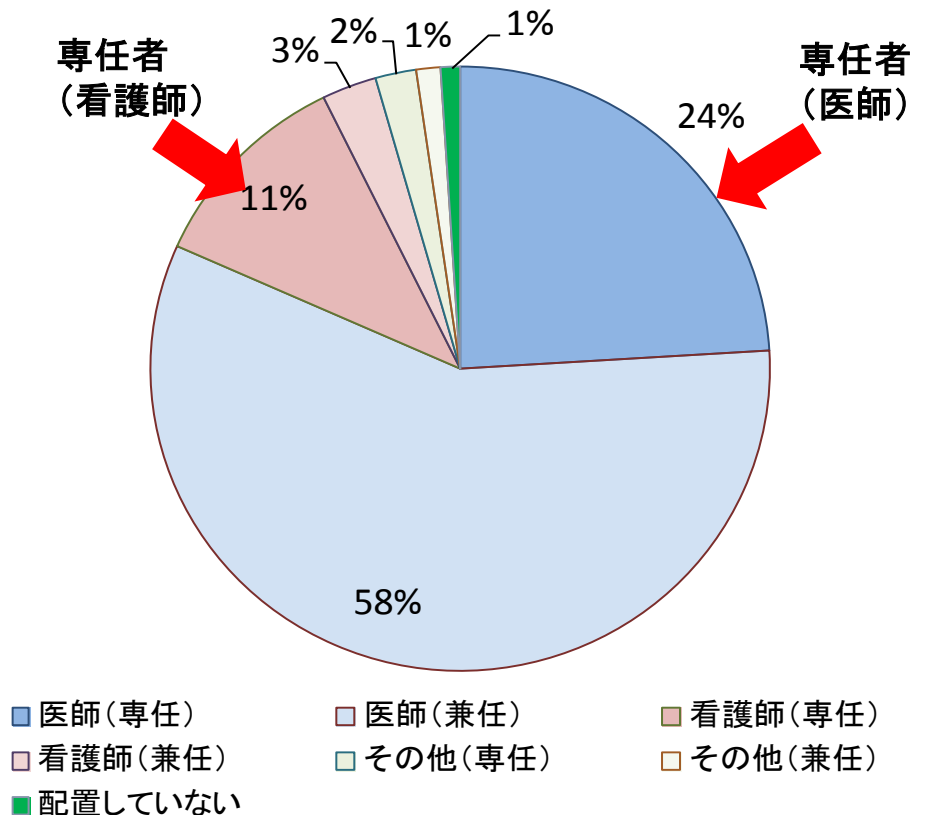
○「一般病床を有する病院」においては、退院調整支援担当者を配置している病院の割合が約35%。そのうち、担当者数1人の病院の割合が約20%と最も高い。

○「一般病床を有する病院」においては、医療安全体制の責任者を配置している病院の割合が約99%。そのうち、責任者を専任としているのは、約37%。また、責任者の資格の割合は医師約82%（そのうち専任者約24%）、看護師約14%（そのうち専任者約11%）であった。

退院調整支援担当者の配置状況



医療安全体制についての責任者の配置状況



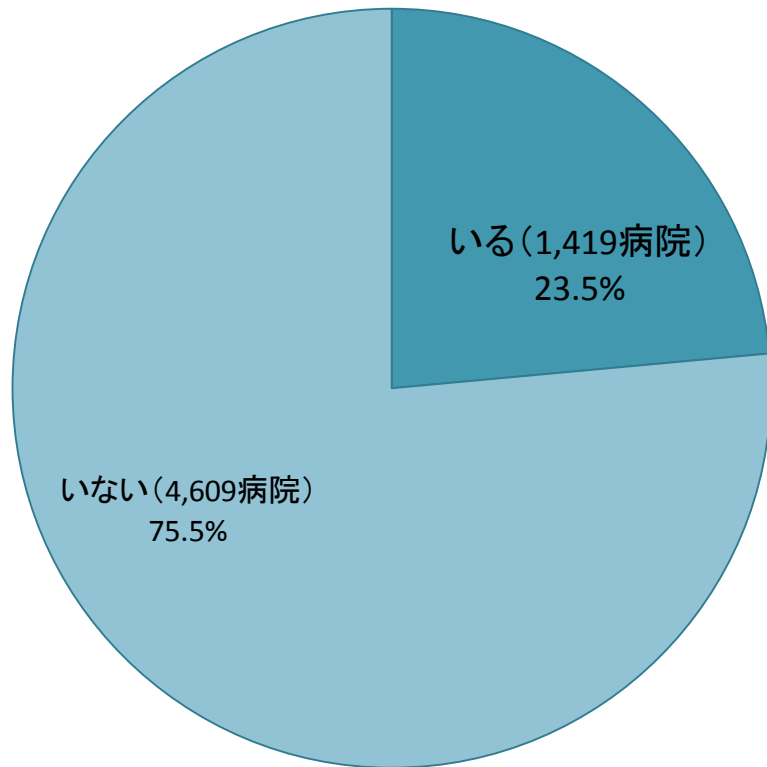
注)ここでいう専任とは専らその業務を任されて担当することをいい、担当業務以外の業務を多少兼任することを差し支えないとされている。

# 臨床研修医の有無及びその分布状況

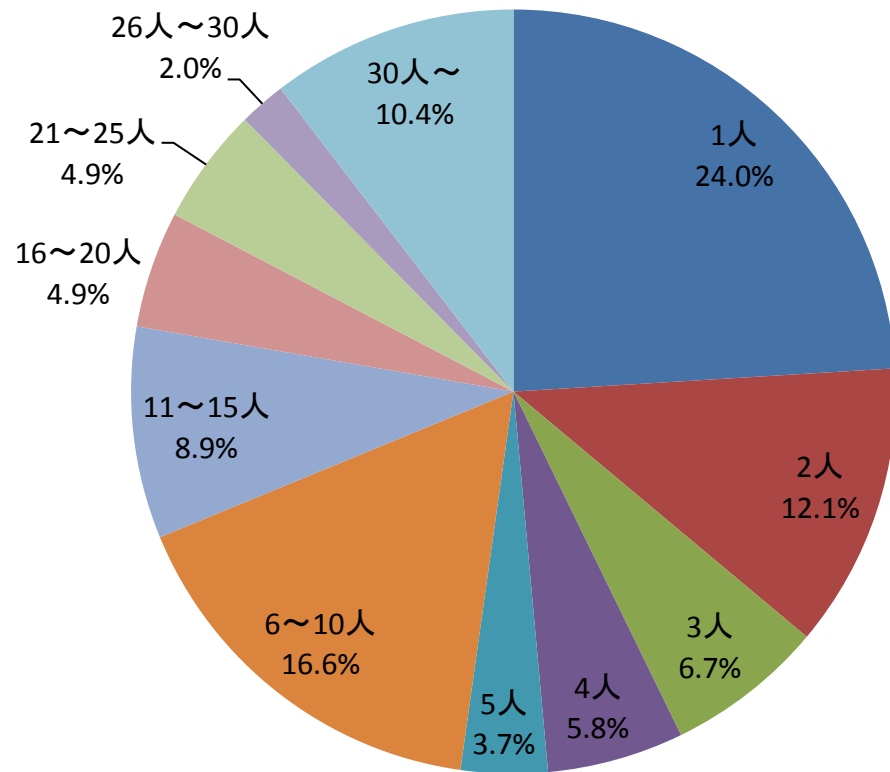
○「一般病床を有する病院」においては、臨床研修医のいる病院の割合は約24%。

○臨床研修医のいる病院の約24%が臨床研修医数は1人であり、約52%が5人以下であった。一方、30人以上の臨床研修医のいる病院は約10%となっている。

## 臨床研修医がいる病院の割合



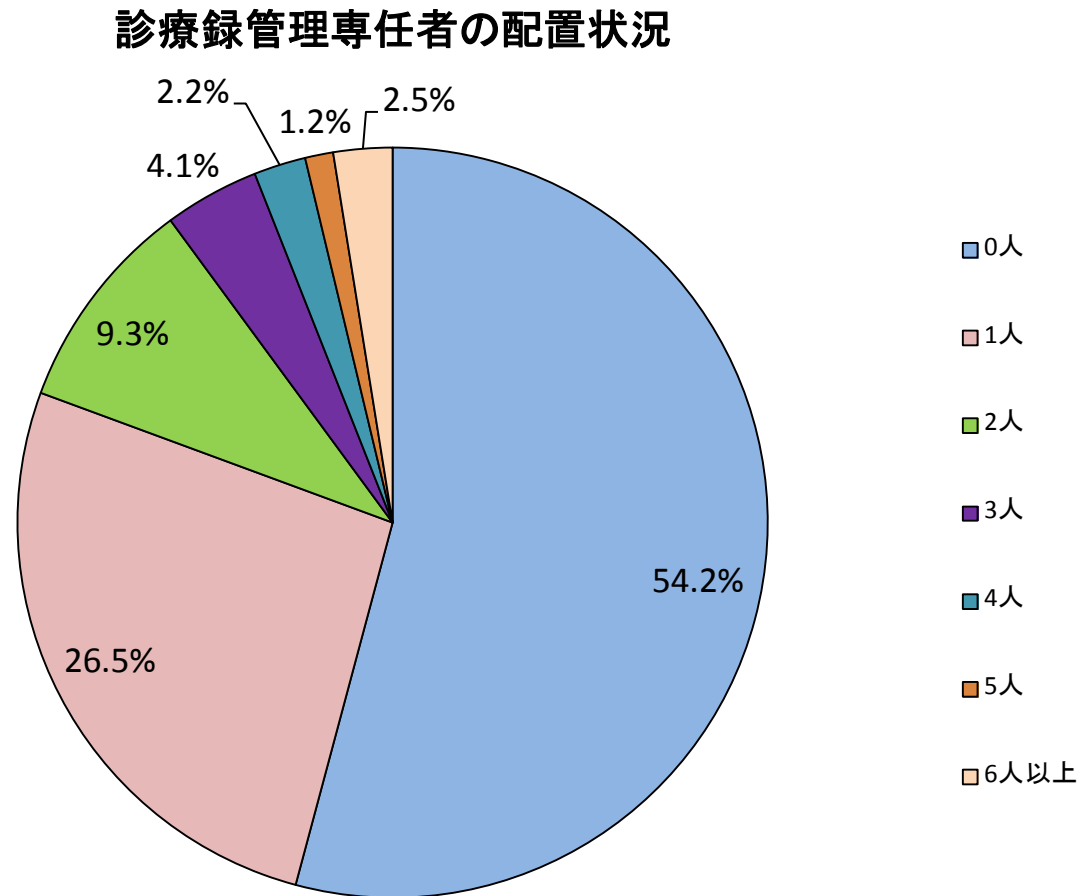
## 臨床研修医の人数の分布状況



「平成20年医療施設静態調査」を基に医政局で作成

# 診療録管理専任者の配置状況

○「一般病床を有する病院」においては、診療録管理専任者を配置している病院の割合は約46%。診療録管理専任者を配置している病院のうち、最も割合が高いのは担当者数1人の病院(約27%)であった。



## Ⅱ DPC対象病院とDPC準備病院について (DPCデータ\*を基に分析)

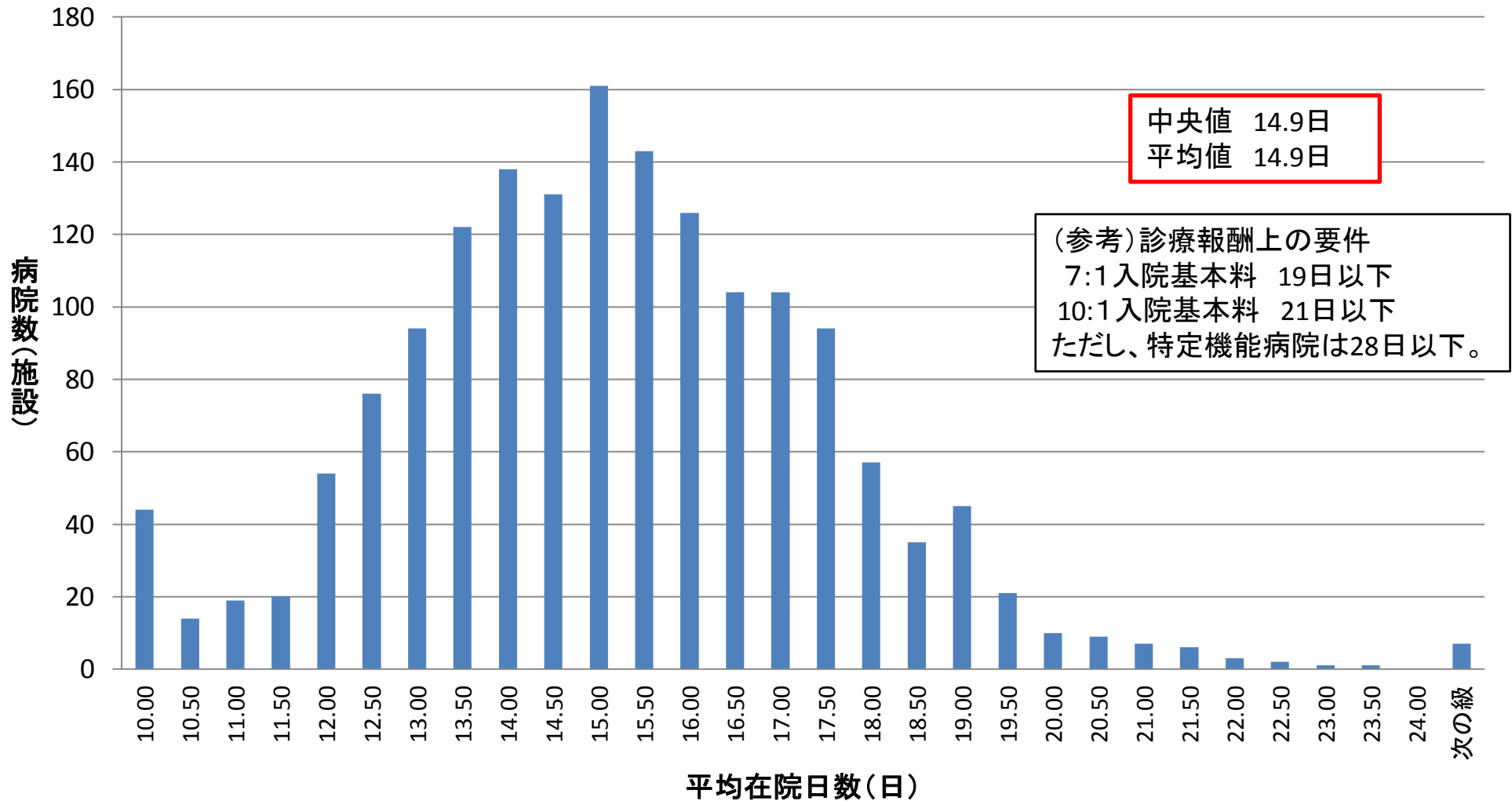
\* DPC対象病院とDPC準備病院(以下「DPC病院」という。)について、「平成23年度第9回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会」のデータ(平成22年7～12月の6月分を対象)を基に分析。

	病院数	病床数
7対1病院	1,106	377,673
10対1病院	535	118,325
13対1、15対1病院	7	660
全体	1,648	496,658



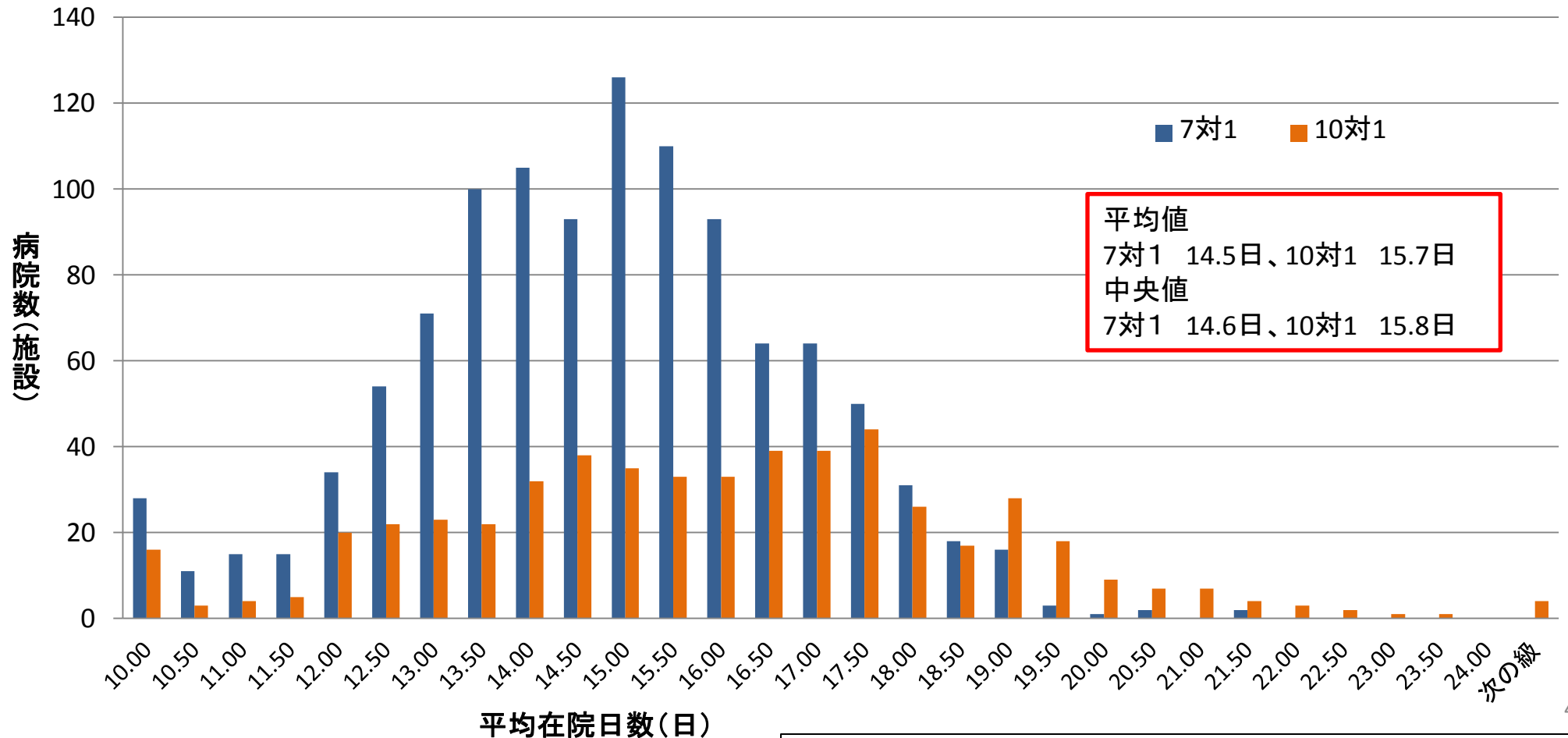
# DPC病院における平均在院日数の分布

○DPC病院の平均在院日数は約15日。



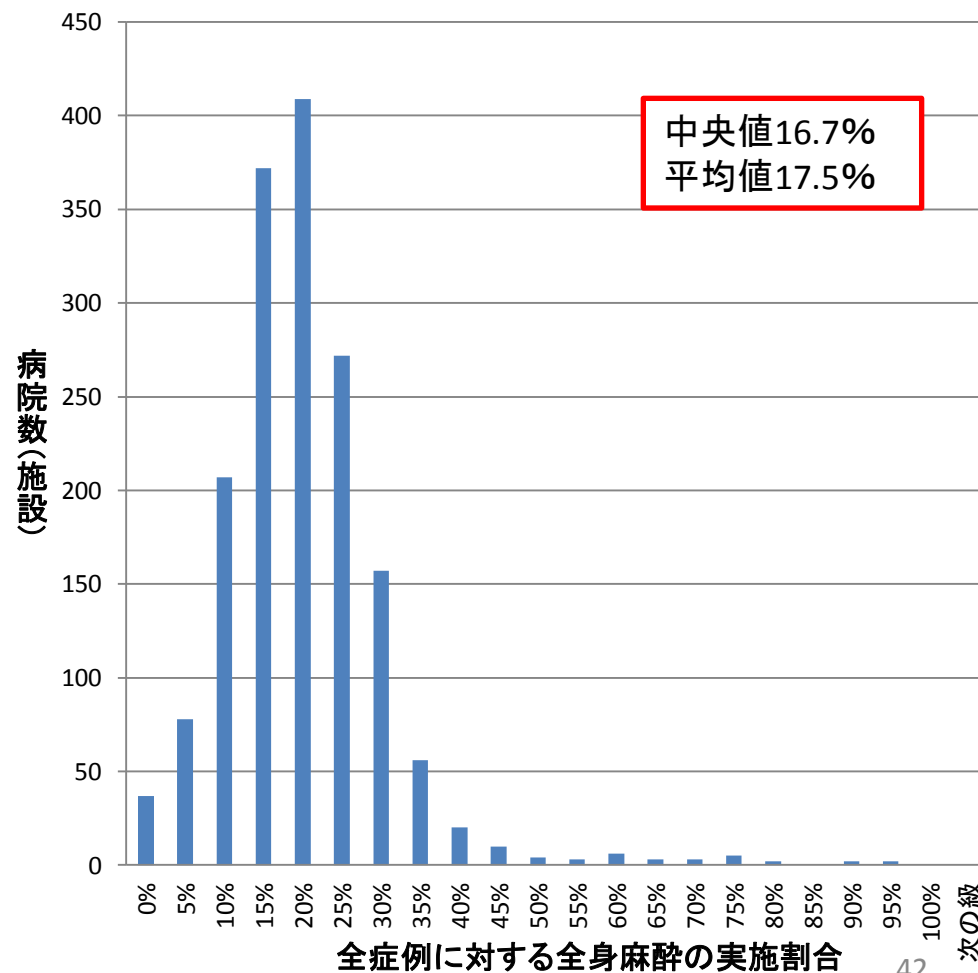
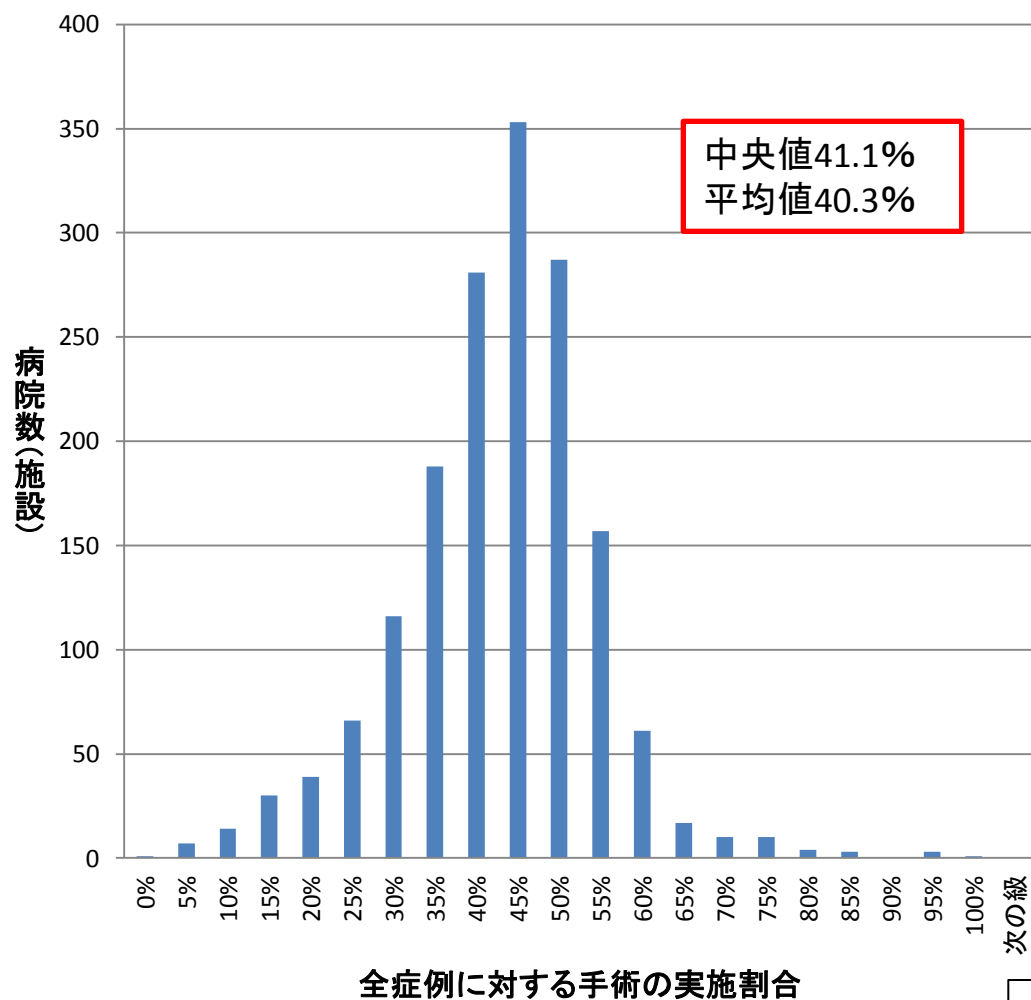
# DPC病院における看護配置基準ごとの平均在院日数の分布

○DPC病院においては、一般病棟入院基本料7対1、10対1病院別に平均在院日数をみると、7対1病院は14.5日、10対1病院は15.7日と、約1日の差がみられる。



# DPC病院における「手術」「全身麻酔」の割合

○ DPC病院においては、病院ごとの全症例に対する「手術」の実施割合の平均値は約40%。「全身麻酔」の実施割合の平均値は約18%。

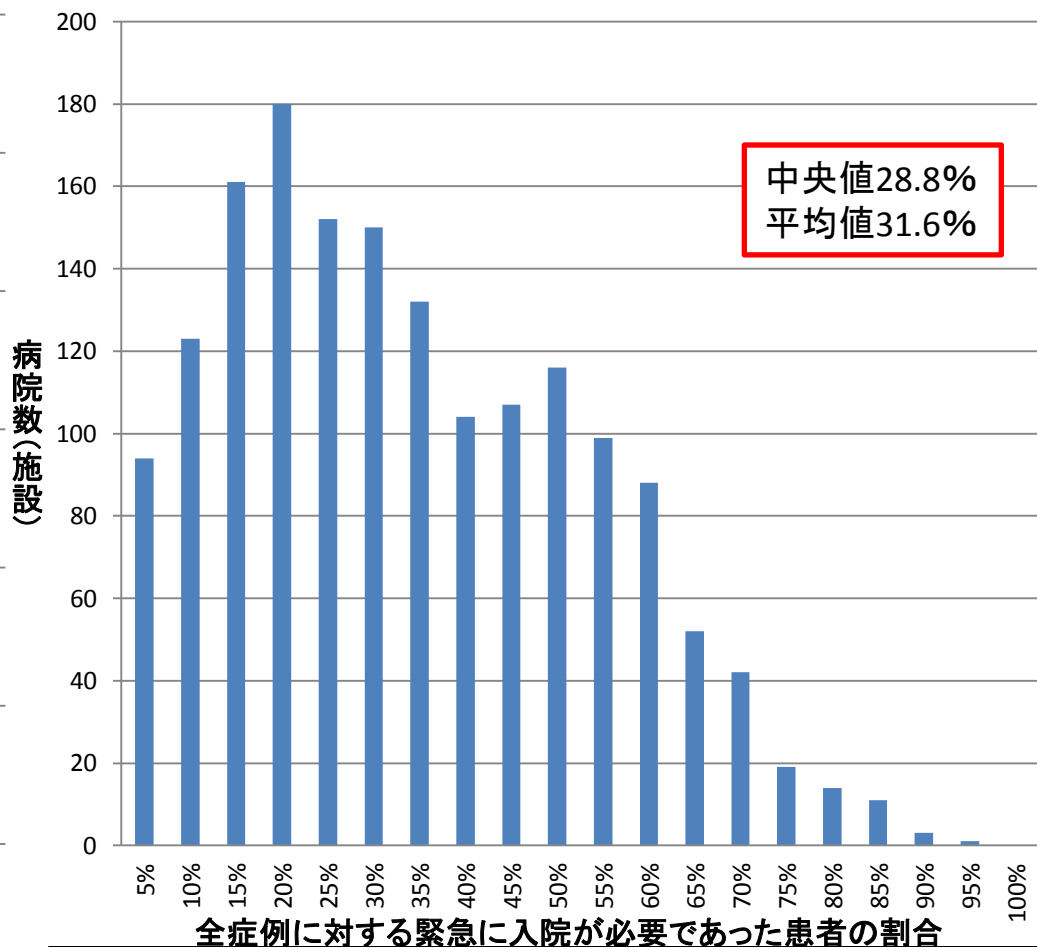
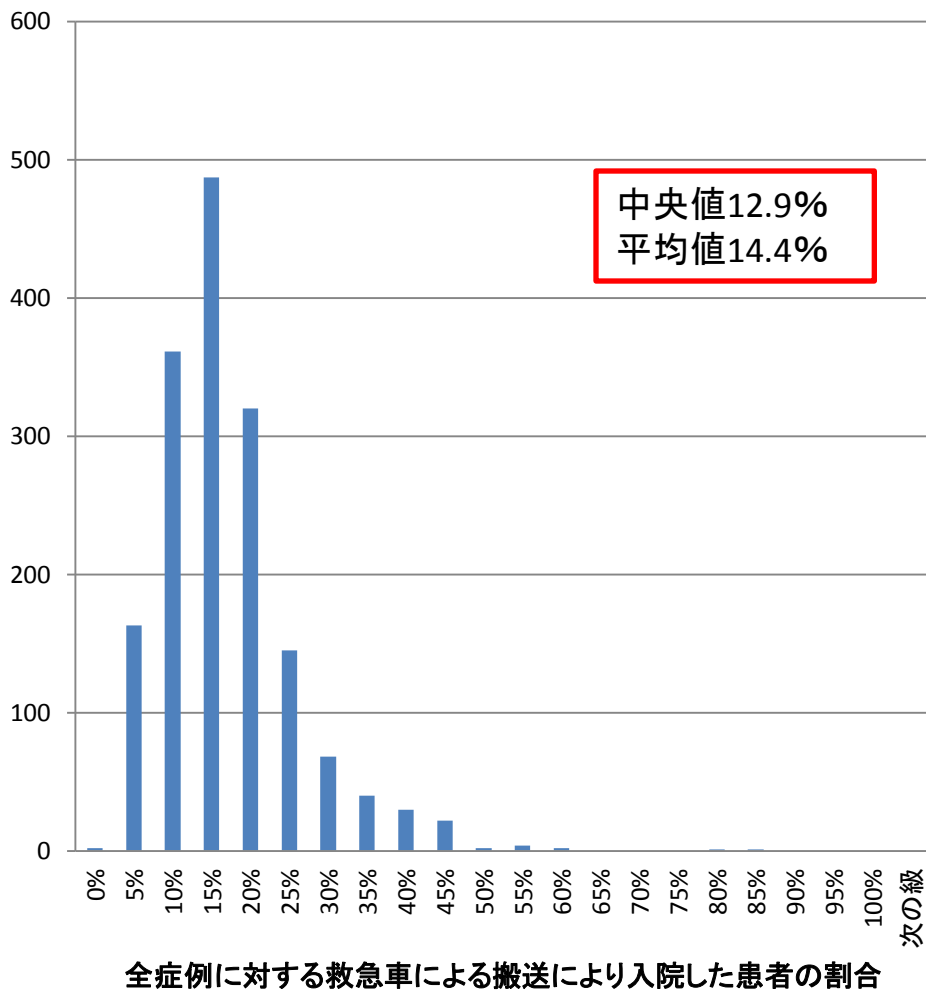


# DPC病院における「救急車による搬送患者」「緊急入院患者」の割合

○ DPC病院においては、病院ごとの全症例に対する「救急車による搬送により入院した患者」割合の平均値は約14%、「緊急に入院が必要であった患者\*」割合の平均値は約32%であった。

\*「緊急に入院が必要であった患者」とは、医師の診察等により緊急に入院が必要と認められたもの

- ・吐血、喀血又は重篤な脱水で全身状態不良の状態
- ・意識障害又は昏睡
- ・呼吸不全又は心不全で重篤な状態
- ・急性薬物中毒
- ・その他上記の要件に準じるような重篤な状態 等



# DPC病院における「放射線療法有り」「化学療法有り」患者の割合

- DPC病院について、病院ごとの全症例に対する「放射線療法有り」患者割合の平均値は約1%、「化学療法有り」患者割合の平均値は約7%。
- 入院医療としての放射線・化学療法の実施割合は多くない。

